

2022(令和4)年度  
尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策広域協議会・地域別意見交換会

日 時：2022(令和4)年8月24日(水) 13:30～16:30  
場 所：ウェブ会議システム「WebEx」

次 第

<第1部：協議会>

1. 開会・挨拶
2. 議事
  - (1) 2021(令和3)年度対策実施結果について
  - (2) 2022(令和4)年度対策実施状況について(トピック)
  - (3) 2023(令和5)年度重点方針の検討について
3. 閉会

<第2部：意見交換会>

1. 全体の意見交換会 「次期対策方針に関する意見交換」
2. 地域別意見交換会
  - ・栃木：「ワークショップ：奥日光の保全活動を楽しもう」
  - ・群馬：
    - 1 笠ヶ岳及び泉水田代における防護柵設置の可能性について
    - 2 尾瀬における効果的な捕獲手法の探求
    - 3 山ノ鼻地区における野生動物対策専門人材の常駐について
  - ・福島：
    - 1 田代山における指定管理鳥獣捕獲等事業の実施について
    - 2 大江湿原における防護柵の管理に関する課題について
    - 3 見晴地区・燧ヶ岳・会津駒ヶ岳・田代山・帝釈山における防護柵の設置について

【配布資料一覧】

<第1部：協議会>

- 資料 議事次第（本紙）
- 資料 出席者名簿
- 資料 1-1 2021（令和3）年度における対策実施結果
- 資料 1-2 2022（令和4）年度における対策実施状況
- 資料 1-3 2023（令和5）年度の重点方針（案）

<第2部：意見交換会>

- 資料 2-1 次期対策方針策定に向けたスケジュール案
- 資料 2-2 現行対策方針における課題等について

- 資料 3-1 栃木意見交換会資料
- 資料 3-2 群馬意見交換会資料
- 資料 3-3 福島新潟意見交換会資料

<参考資料>

- 参考資料 尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策広域協議会設置要綱
- 参考資料 尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策方針（概要版）
- 参考資料 2021（令和3）年度実施結果の自己評価シート
- 参考資料 2022（令和4）年度の重点方針及び実施計画

## 2022(令和4)年度 尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策広域協議会 出席者名簿

2022(令和4)年8月24日(水)

所属	役職	氏名	会場(web)
関東森林管理局 計画保全部保全課	野生鳥獣管理指導官	菊池 毅	群馬
	保護係長	真下 典子	群馬
会津森林管理署南会津支署	支署長	橋本 俊夫	福島新潟
	森林情報管理官	辻ノ内 桂志	福島新潟
	主席森林官	櫻井 勝	福島新潟
	主任森林整備官	西秋 博	福島新潟
	主事	山名 一得	福島新潟
日光森林管理署	森林技術指導官	野口 光三	栃木A
	総括森林整備官	平野 辰典	栃木B
	主任森林整備官	小口 大輔	栃木A
利根沼田森林管理署	森林技術指導官	須藤 洋一	群馬
中越森林管理署	森林技術指導官	本田 誠	福島新潟
	総括森林整備官	大仁田秀介	福島新潟
	一般	坂上ちひろ	福島新潟
栃木県 環境森林部自然環境課	課長補佐	丸山 哲也	栃木A
	技師	長谷川 健太	栃木A
県西環境森林事務所環境部環境企画課	副主幹	渡邊 智佳	栃木B
群馬県 森林環境部環境局自然環境課 尾瀬保全推進室	企画推進係長	西嶋 弘満	群馬
	主任	大澤 康生	群馬
地域創生部文化財保護課		欠席	
福島県 生活環境部自然保護課	主査	小原 真奈美	福島新潟
	教育庁文化財課	欠席	
南会津地方振興局県民環境部県民環境課	副主査	武田 也実	福島新潟
新潟県 県民生活・環境部環境企画課		欠席	
	観光文化スポーツ部文化課	金子 正	福島新潟
日光市 農林課	課長補佐兼林政係長	千葉 達哉	栃木B
	副主幹	蜂須賀 博史	栃木B
	主査	野瀬田 直也	栃木B
片品村	農林建設課 主任	大竹 凜	群馬
	むらづくり観光課 課長補佐	青木 厚	群馬
南会津町		欠席	
檜枝岐村 産業建設課		欠席	
魚沼市 生活環境課		欠席	
東京電力リニューアブルパワー株式会社 水力部 水利・尾瀬グループ	マネージャー	小島 俊	群馬
	チームリーダー	菊池 史郎	群馬
尾瀬山小屋組合	組合長	清水 秀一	群馬
公益財団法人尾瀬保護財団 企画課	課長	白石 光伸	群馬
	副主幹	村松 智未	福島新潟
三井物産フォレスト株式会社 本州事業部	業務部シニアマネージャー	鎌田 学	福島新潟
	東京山林事務所	細島 彩起子	福島新潟

【有識者】			
宇都宮大学	名誉教授	谷本 丈夫	栃木A
群馬県立自然史博物館	生物研究係 主幹	大森 威宏	群馬
広島修道大学	人間環境学部 准教授	奥田 圭	福島新潟

【事務局】			
関東地方環境事務所 国立公園課	次長	立田 理一郎	
	課長補佐	青柳 信太	群馬
野生生物課	自然保護官	黒田 浩太郎	福島新潟
	課長	佐藤 大樹	群馬
日光国立公園管理事務所	鳥獣管理・感染症対策専門官	鈴木 真野	栃木B
	所長	千田 純子	栃木A
	国立公園保護管理企画官	二神 紀彦	栃木B
	生態系保全等専門員	吉川 美紀	栃木A
檜枝岐自然保護官事務所	国立公園管理官	山崎 大輔	福島新潟
	生態系保全等専門員	杉原 敏夫	福島新潟
片品自然保護官事務所	自然保護官	服部 優樹	群馬
	自然保護官補佐	尾池 こず江	群馬
	生態系保全等専門員	黒沢 秀基	群馬
一般社団法人日本森林技術協会	技師	福沢 朋子	福島新潟
	リーダー	南波 興之	群馬
株式会社野生動物保護管理事務所	取締役/部長	奥村 忠誠	福島新潟
	主任研究員	瀬戸 隆之	群馬
	研究員	加藤 敬介	栃木B
	研究員	小林 祥	福島新潟
	研究員	小林 春香	福島新潟
	研究員	竹内 啓之	栃木B
	研究員	富田 大陸	群馬
	研究員	羽根田 貴行	群馬
	研究員	邑上 亮真	福島新潟
	研究員	吉田 真悟	栃木A

# 2021（令和3）年度対策実施結果

2022(令和4)年8月24日

尾瀬・日光国立公園二ホンジカ対策広域協議会



# 目次

## **1. 地域全体の集計結果**

## **2. 事業目標の進捗状況**

**〈参考〉各地域の状況（全体）**

# 地域区分について

(1) 分布拡大域

(2) 尾瀬ヶ原・尾瀬沼

(3) 移動経路上

(4) 越冬地

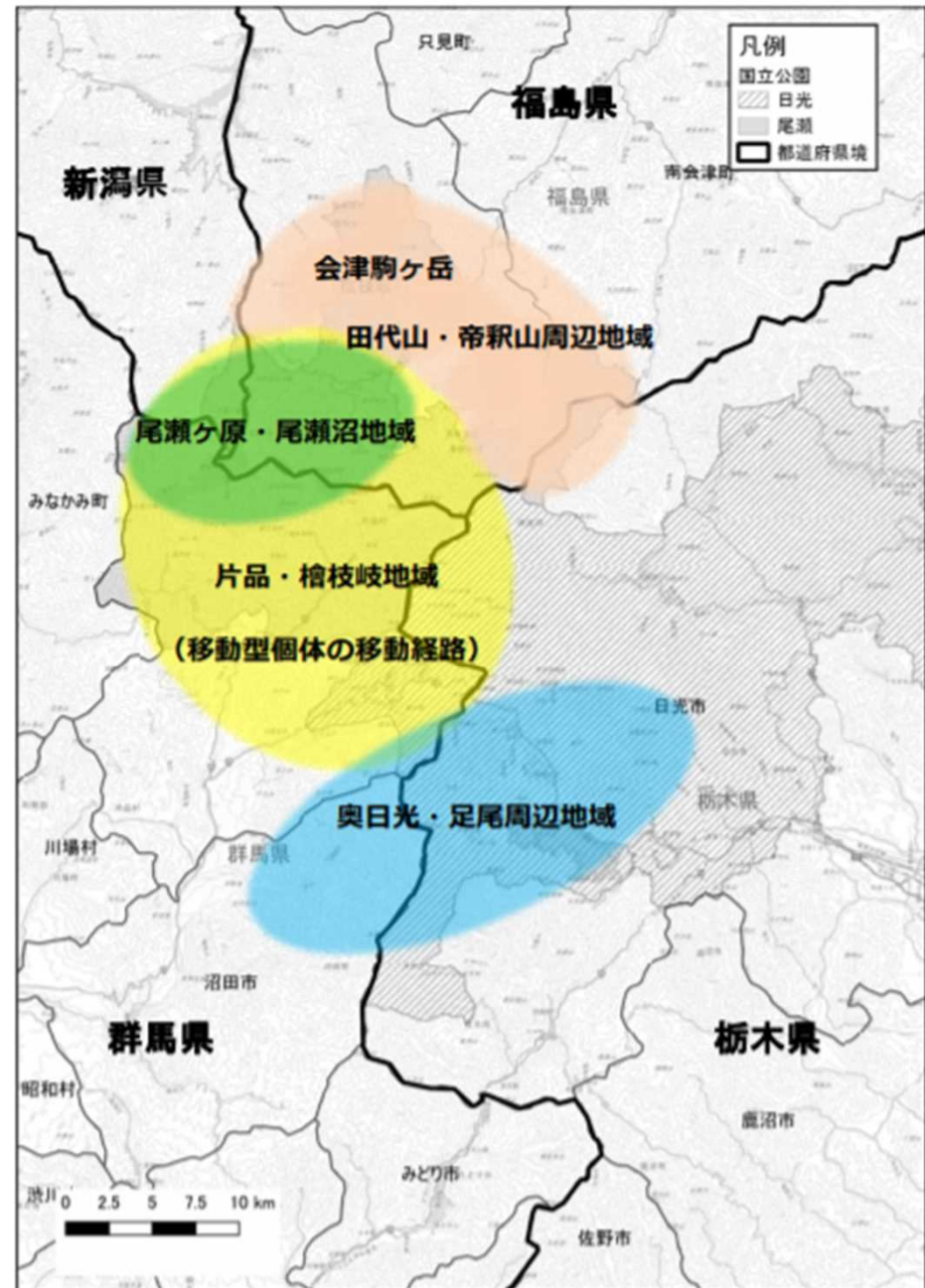
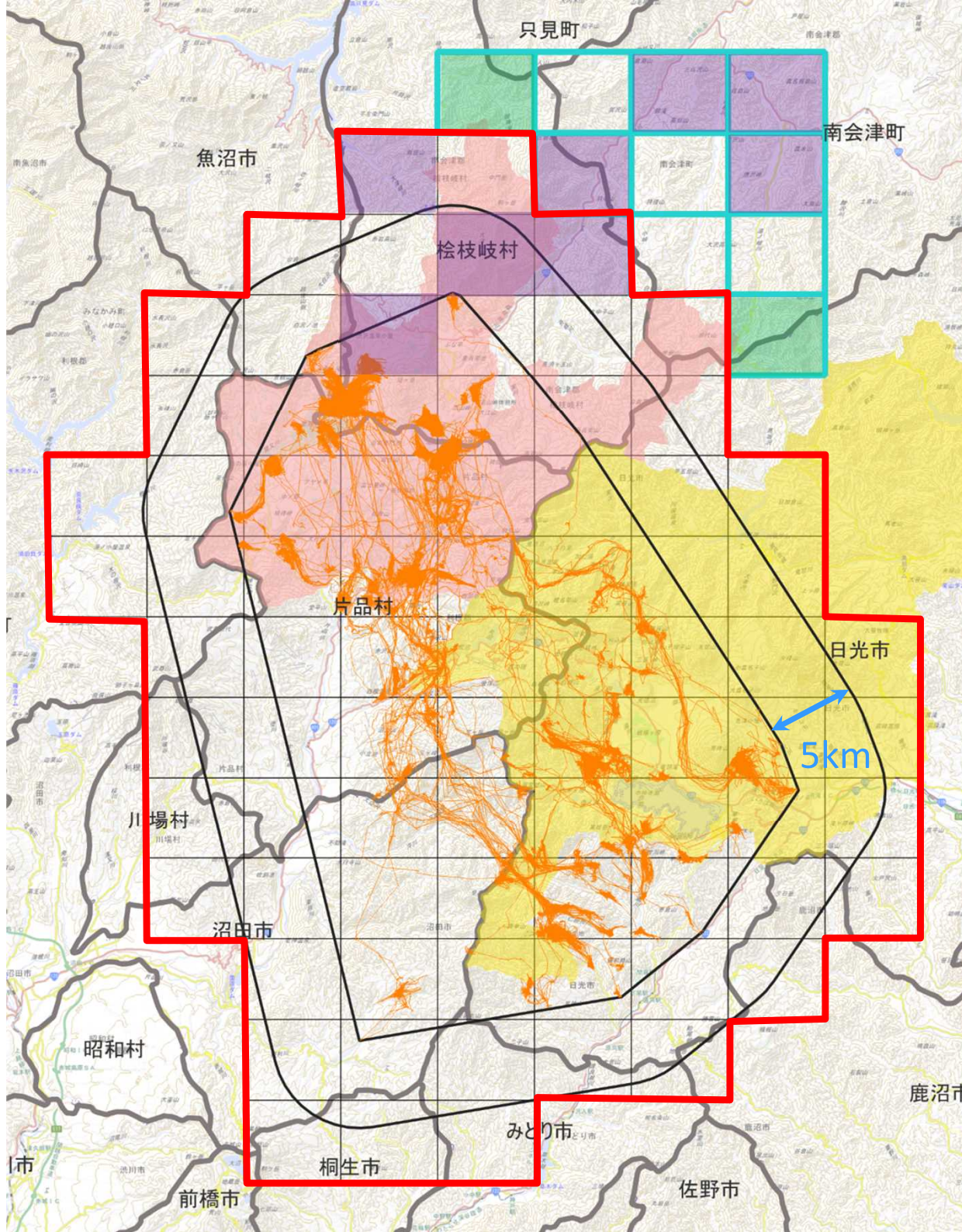


図1 本対策方針の対象区域



# データの収集範囲



既存データ収集範囲



対策範囲隣接地域



福島県糞塊密度調査  
対象メッシュ



尾瀬国立公園範囲を  
含むメッシュ



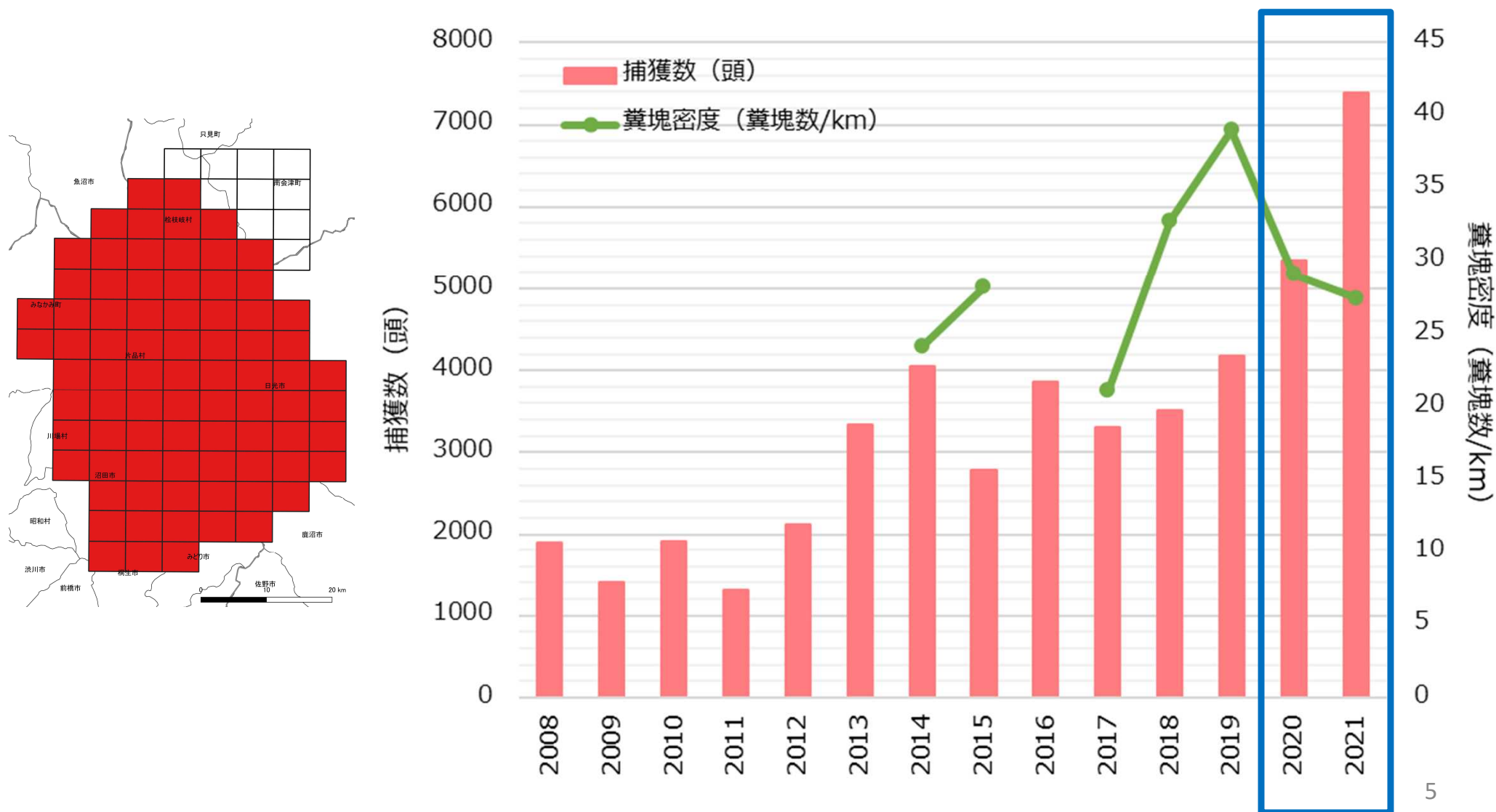
尾瀬国立公園



日光国立公園

## 対策エリア全体における糞塊密度・捕獲数

- ・ 対策エリア内の総捕獲数は増加傾向。※2021年度過去最高
- ・ 糞塊密度（群馬県・栃木県の平均値）は近年、減少の兆候が認められる。

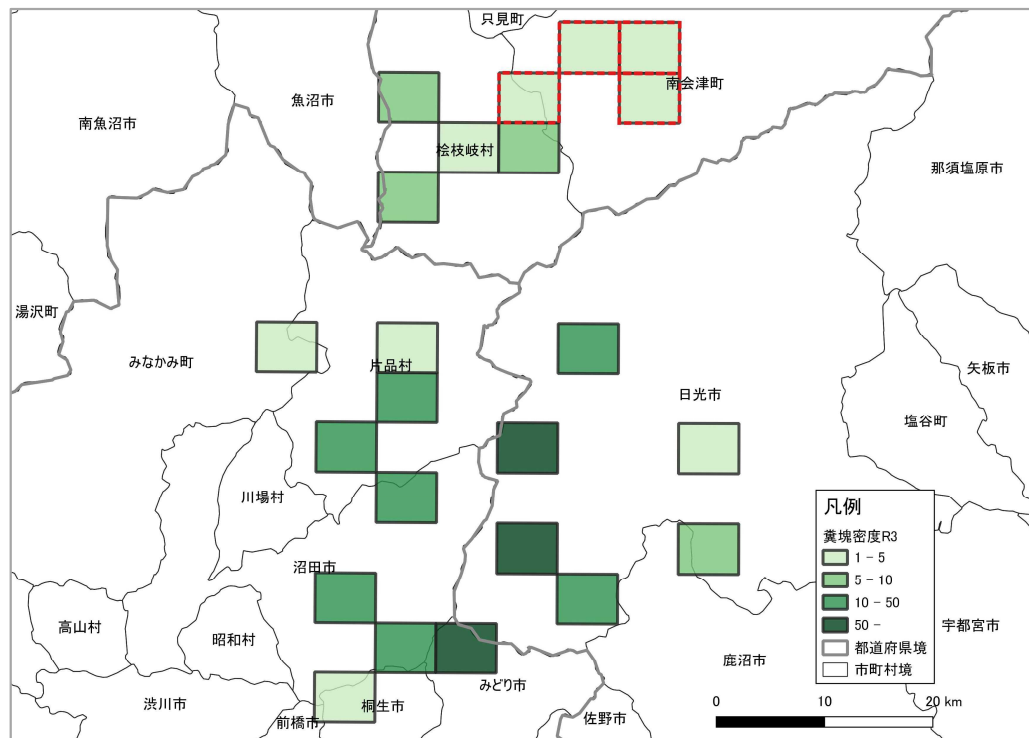




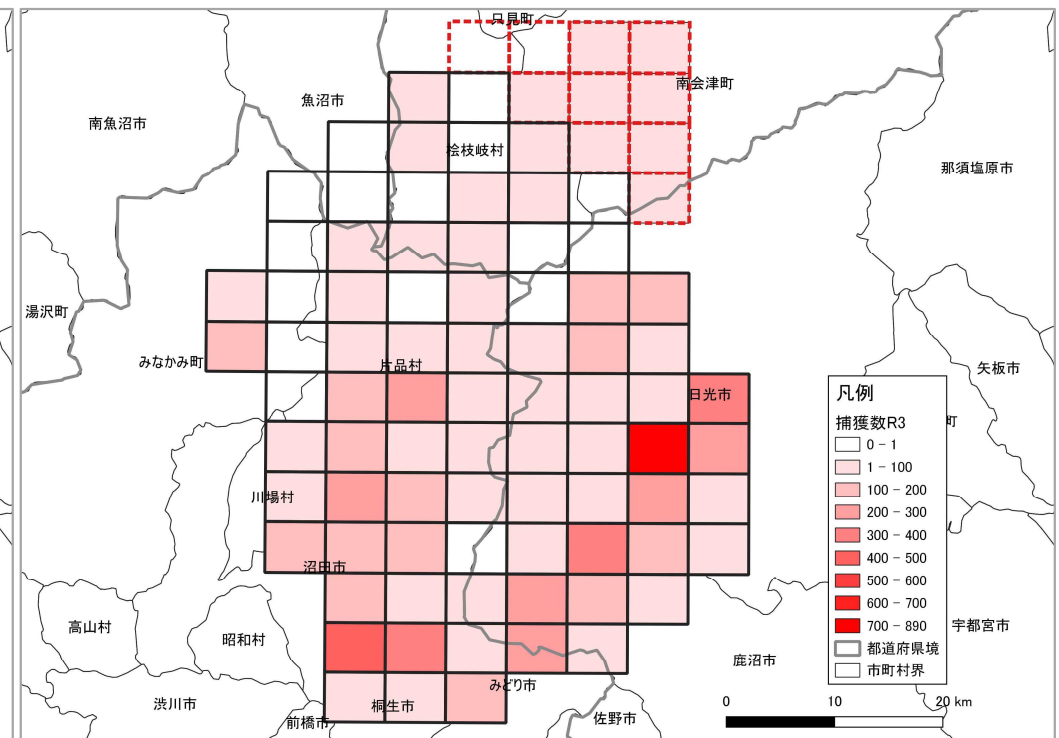
# 2021年度の糞塊密度・捕獲数

- ・ 対策エリア内の糞塊密度は、中央部から南部が高い。
- ・ 対策エリア内の捕獲数は、南東部から南部が多い。

## 糞塊密度

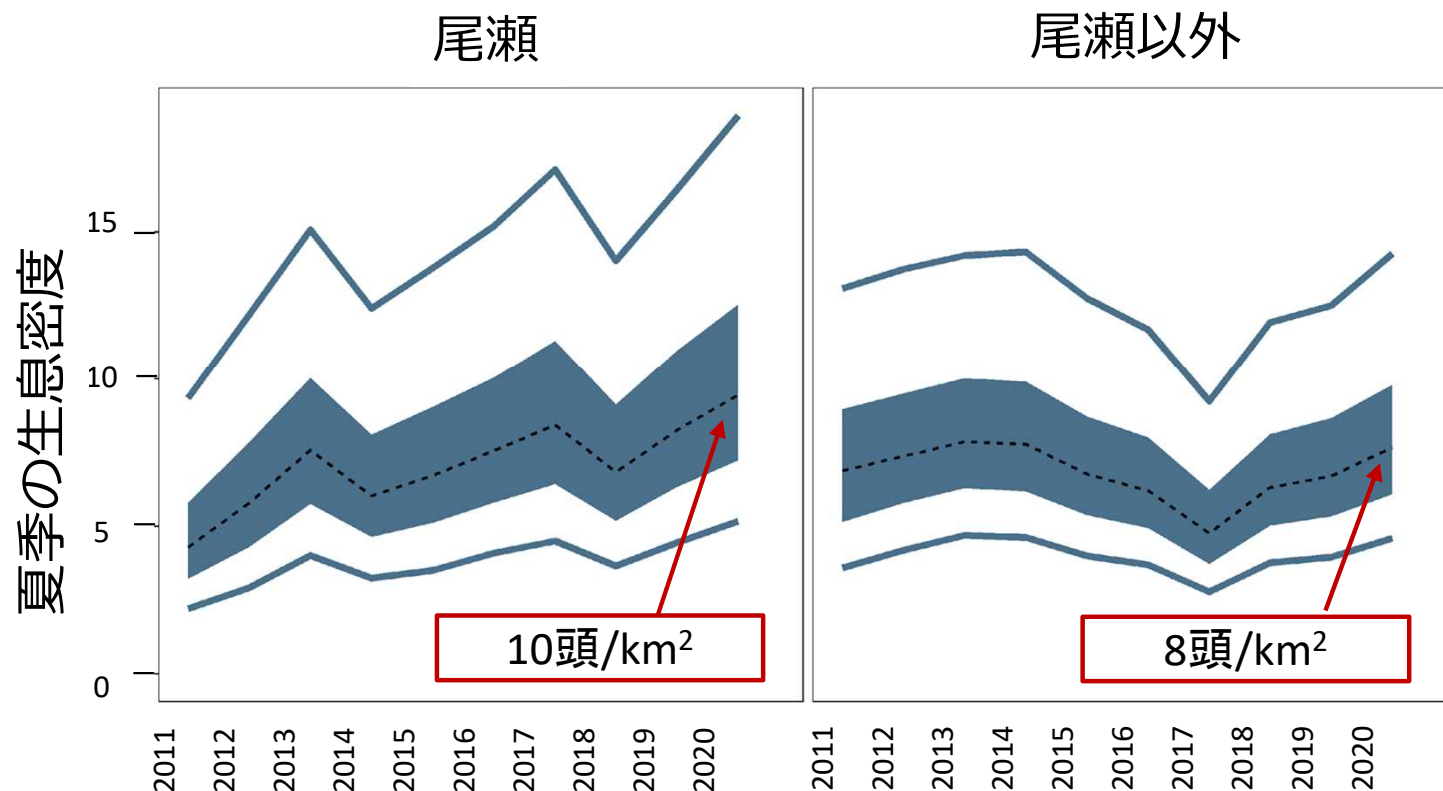
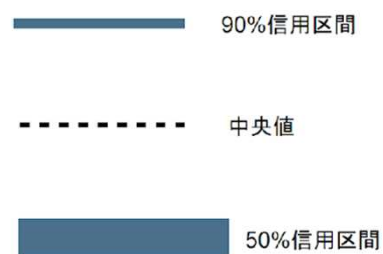
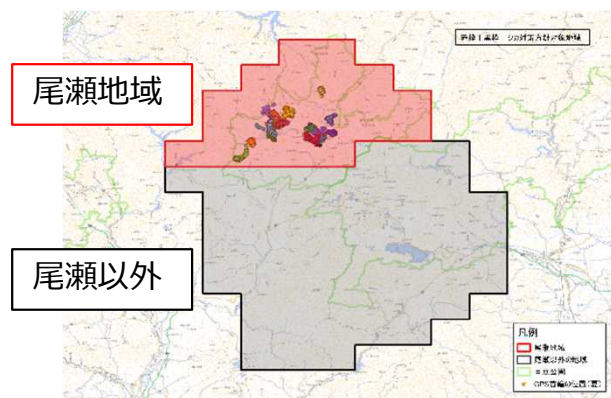


## 捕獲数



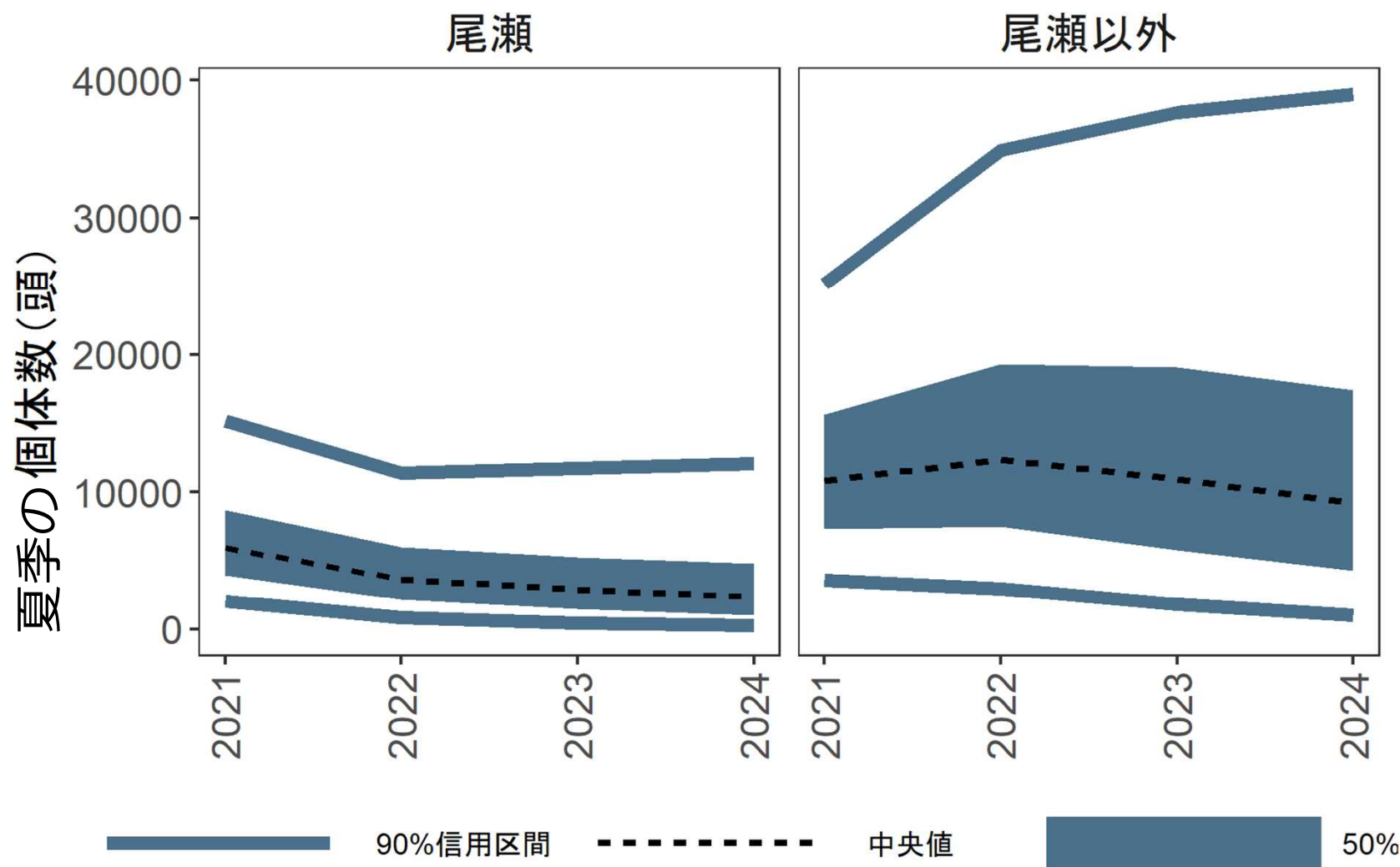
# (個体数推定) 対策エリア全体における生息密度

- 尾瀬地域における生息密度は増加傾向。
- 尾瀬以外の地域における生息密度は、2014～2017年に一度減少傾向になった後、近年は増加傾向。



# (個体数推定) 対策エリア全体における将来予測

- 2023年から対策エリア全体の捕獲努力を2020年の1.4倍にすることで、2024年には尾瀬地域の個体数を2019年の半数にできることが予測された。



# 目次

1. 地域全体の集計結果

2. 事業目標の進捗状況

〈参考〉各地域の状況（全体）



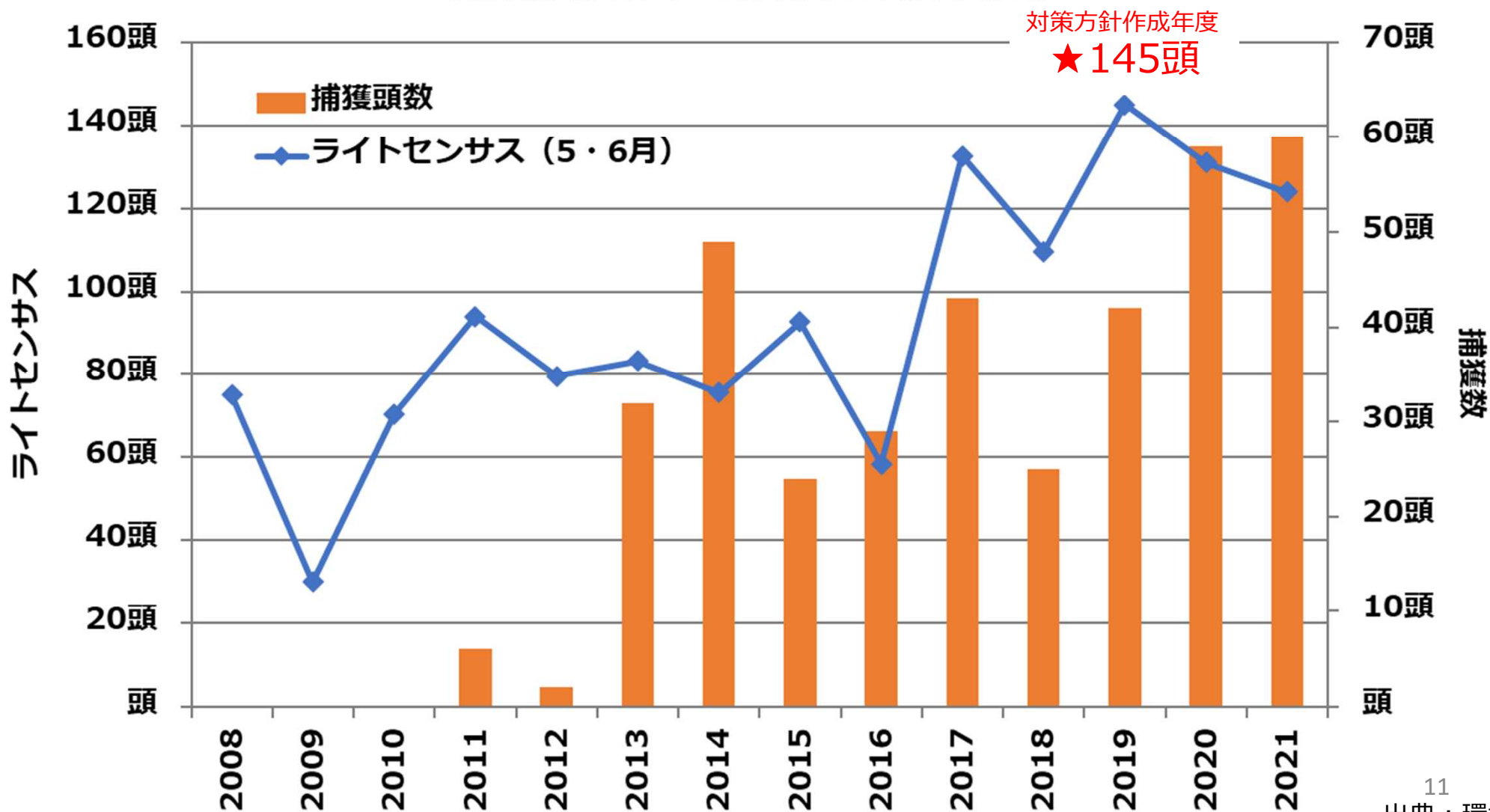
## 尾瀬・日光国立公園二ホンジカ対策方針（概要版）

	日光国立公園 シカの生息条件下で成立した生態系	尾瀬国立公園 シカによる影響を受けずに成立した生態系
最終目標 (ゴール)	<u>シカの生息密度が適切に保たれ、植生への影響が十分に小さく、健全な植生の維持・更新に支障がない状態を維持</u>	<u>尾瀬ヶ原・尾瀬沼や高山帯へのシカの影響を排除し、湿原及び高山植生への影響が見られない状態を維持</u>
事業目標 (5年目途)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 植生への影響を低減するため、<u>シカの生息密度を現状より低密度に</u></li> <li>➤ 保全対象となる湿原・高山・森林植生を維持・回復するため、関係機関が連携して、<u>防護柵を適切に設置・維持管理</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ <u>湿原植生への影響を低減するため、指標に基づき、尾瀬ヶ原等の湿原に出没するシカの個体数を概ね半減</u></li> <li>➤ 森林、湿原及び高山植生を保護するため、関係者が連携して、<u>優先防護エリアのA及びBランクに防護柵を設置</u></li> </ul>



- 尾瀬ヶ原での捕獲数は2013年度以降増減を繰り返している。※2021年度過去最高
- 5・6月のライトセンサスの平均確認頭数は増加傾向であったが、近年やや減少。

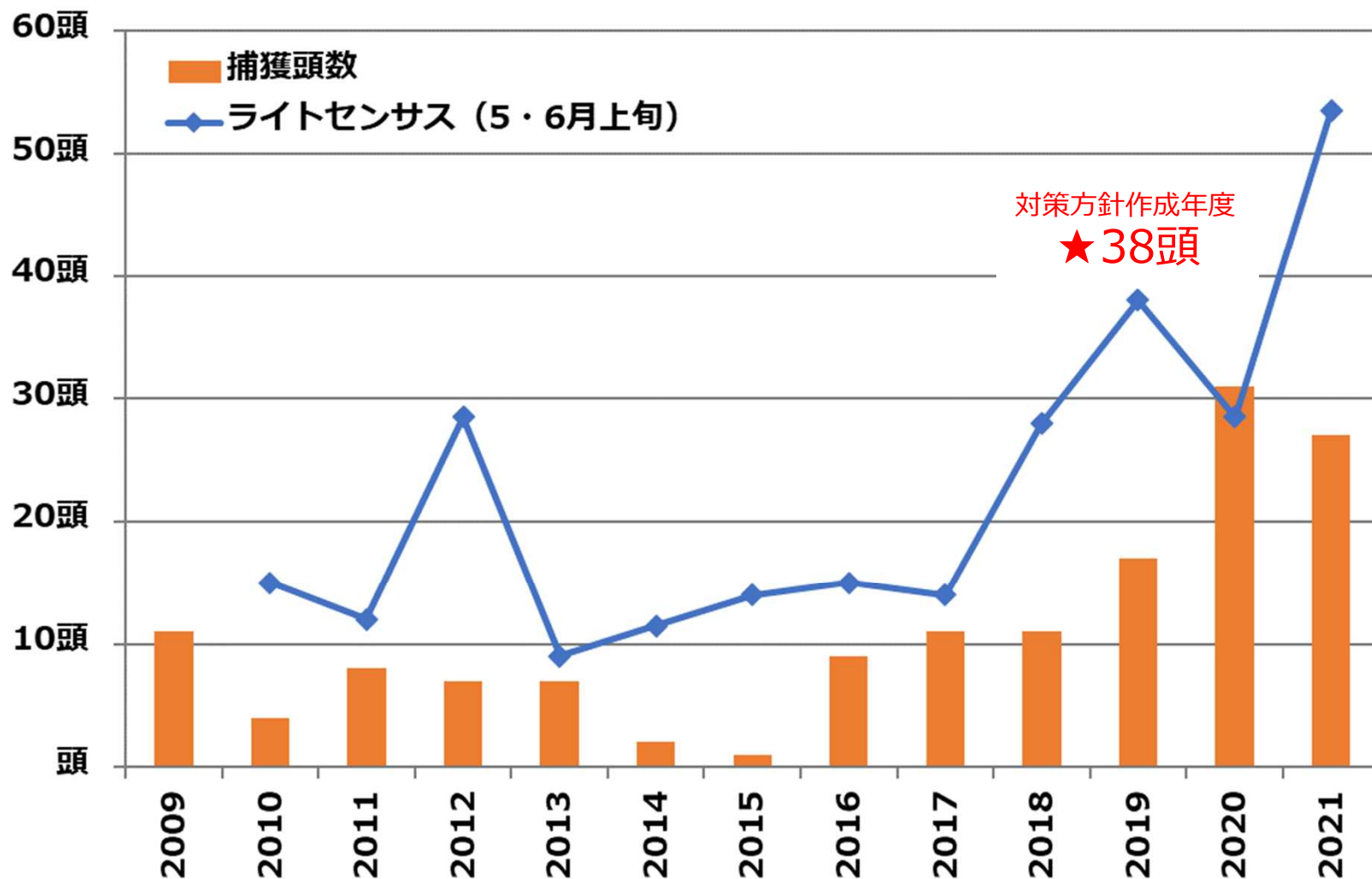
### 捕獲頭数と平均確認個体数の推移





- 尾瀬沼での捕獲数は増加傾向。
- 5～6月上旬（大江湿原柵設置前）のライトセンサスの平均確認頭数は、近年激増。

### 捕獲頭数と平均確認個体数の推移



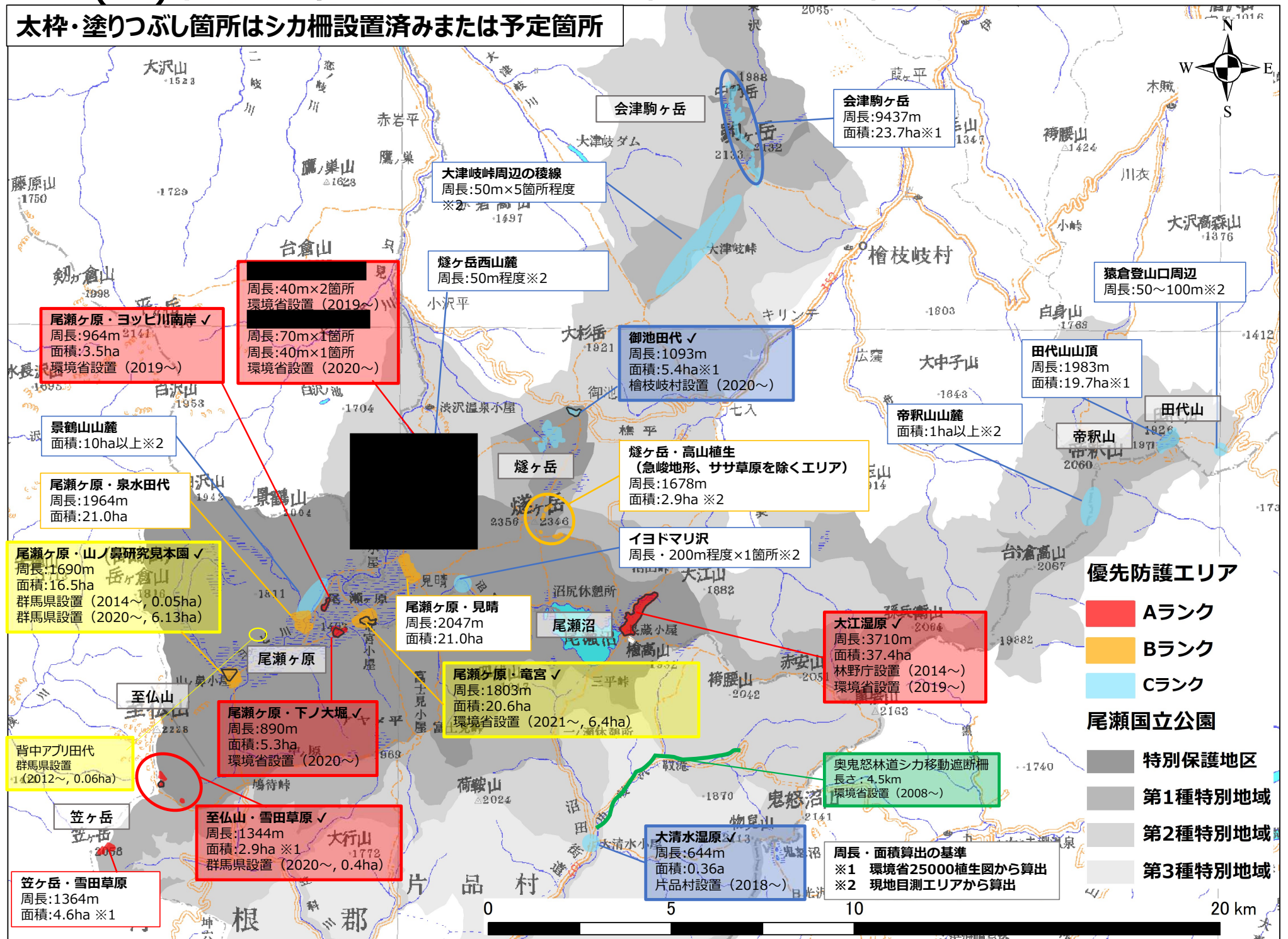
## 尾瀬・日光国立公園二ホンジカ対策方針（概要版）

	日光国立公園 シカの生息条件下で成立した生態系	尾瀬国立公園 シカによる影響を受けずに成立した生態系
最終目標 (ゴール)	<u>シカの生息密度が適切に保たれ、植生への影響が十分に小さく、健全な植生の維持・更新に支障がない状態を維持</u>	<u>尾瀬ヶ原・尾瀬沼や高山帯へのシカの影響を排除し、湿原及び高山植生への影響が見られない状態を維持</u>
事業目標 (5年目途)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 植生への影響を低減するため、<u>シカの生息密度を現状より低密度に</u></li> <li>➤ 保全対象となる湿原・高山・森林植生を維持・回復するため、関係機関が連携して、<u>防護柵を適切に設置・維持管理</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 湿原植生への影響を低減するため、指標に基づき、<u>尾瀬ヶ原等の湿原に出没するシカの個体数を概ね半減</u></li> <li>➤ 森林、湿原及び高山植生を保護するため、関係者が連携して、<u>優先防護エリアのA及びBランクに防護柵を設置</u></li> </ul>



# 2022(R4)年度実施計画 尾瀬国立公園優先防護エリア及び防護柵位置図

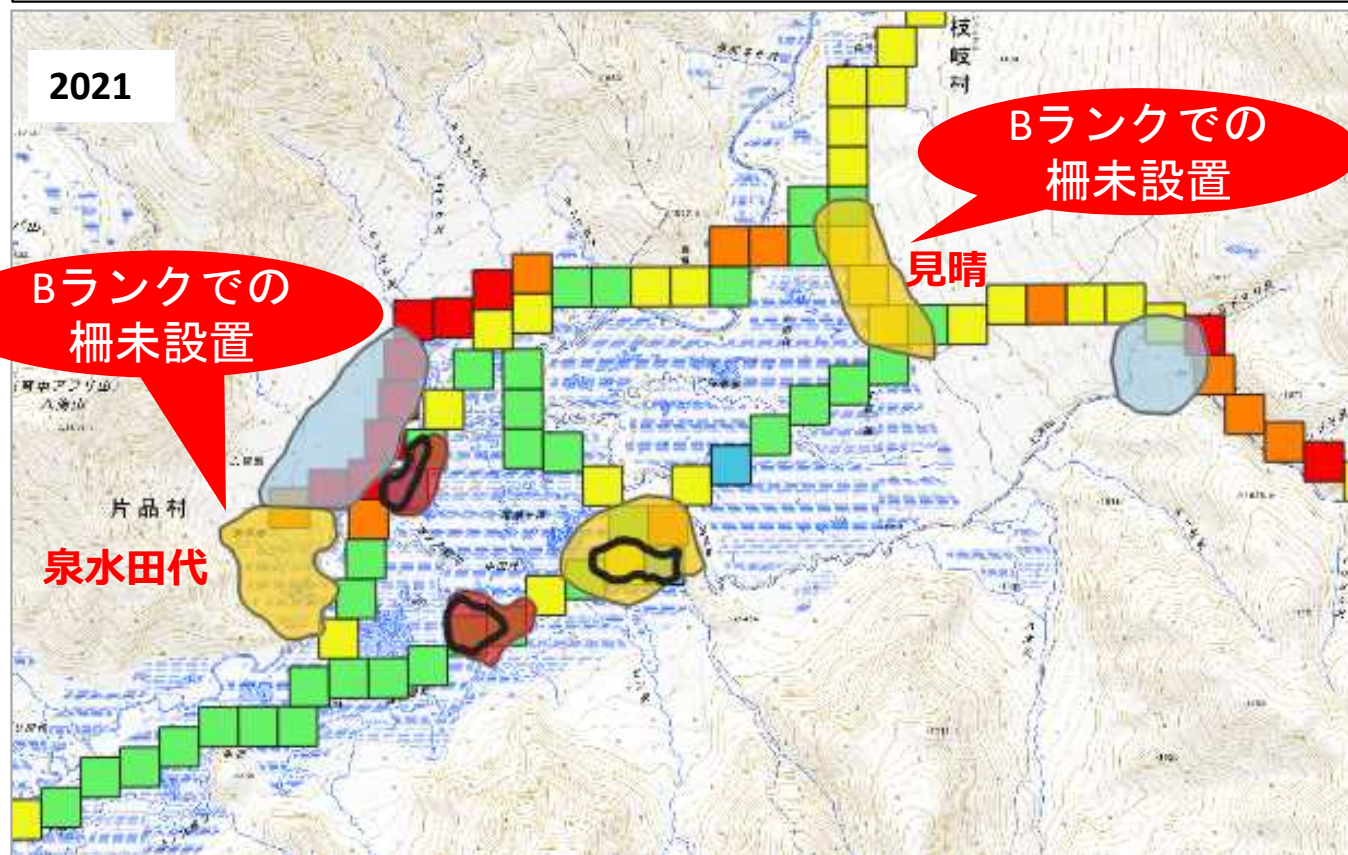
太枠・塗りつぶし箇所はシカ柵設置済みまたは予定箇所



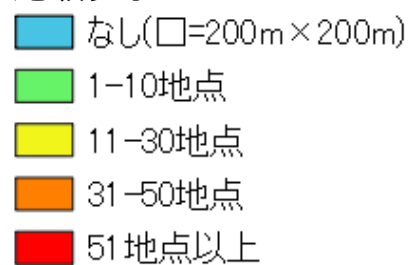




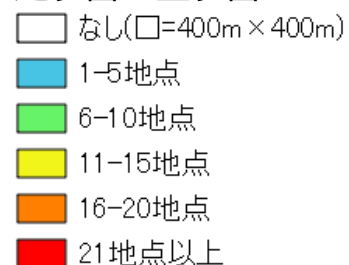
- 優先防護エリアに選定されている泉水田代、見晴、燧ヶ岳、笠ヶ岳では採食確認地点数が多いが、柵は未設置。



尾瀬ヶ原



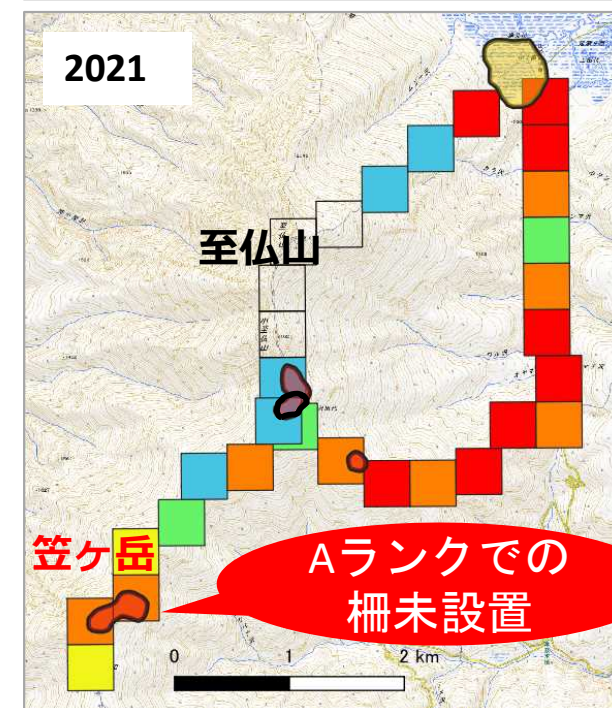
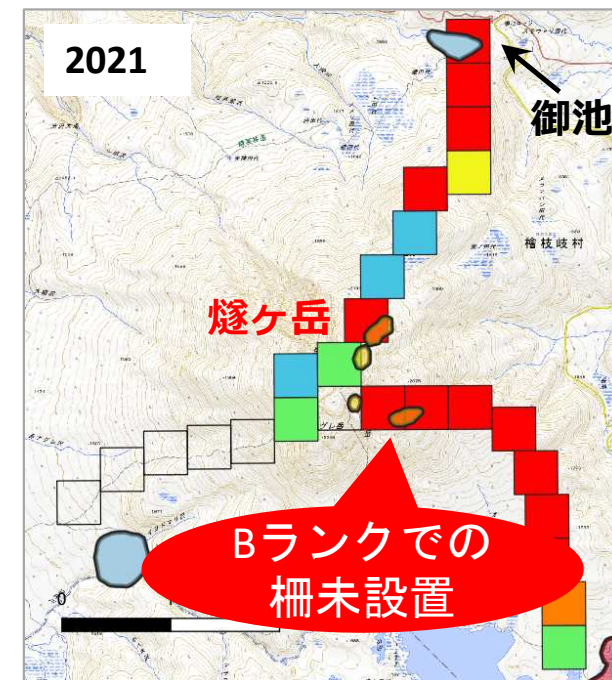
燧ヶ岳・笠ヶ岳



優先防護エリア



○ シカ柵



## 尾瀬・日光国立公園二ホンジカ対策方針（概要版）

	日光国立公園 シカの生息条件下で成立した生態系	尾瀬国立公園 シカによる影響を受けずに成立した生態系
最終目標 (ゴール)	<u>シカの生息密度が適切に保たれ、植生への影響が十分に小さく、健全な植生の維持・更新に支障がない状態を維持</u>	<u>尾瀬ヶ原・尾瀬沼や高山帯へのシカの影響を排除し、湿原及び高山植生への影響が見られない状態を維持</u>
事業目標 (5年目途)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ <u>植生への影響を低減するため、シカの生息密度を現状より低密度に</u></li> <li>➤ 保全対象となる湿原・高山・森林植生を維持・回復するため、関係機関が連携して、<u>防護柵を適切に設置・維持管理</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 湿原植生への影響を低減するため、指標に基づき、<u>尾瀬ヶ原等の湿原に出没するシカの個体数を概ね半減</u></li> <li>➤ 森林、湿原及び高山植生を保護するため、関係者が連携して、<u>優先防護エリアのA及びBランクに防護柵を設置</u></li> </ul>

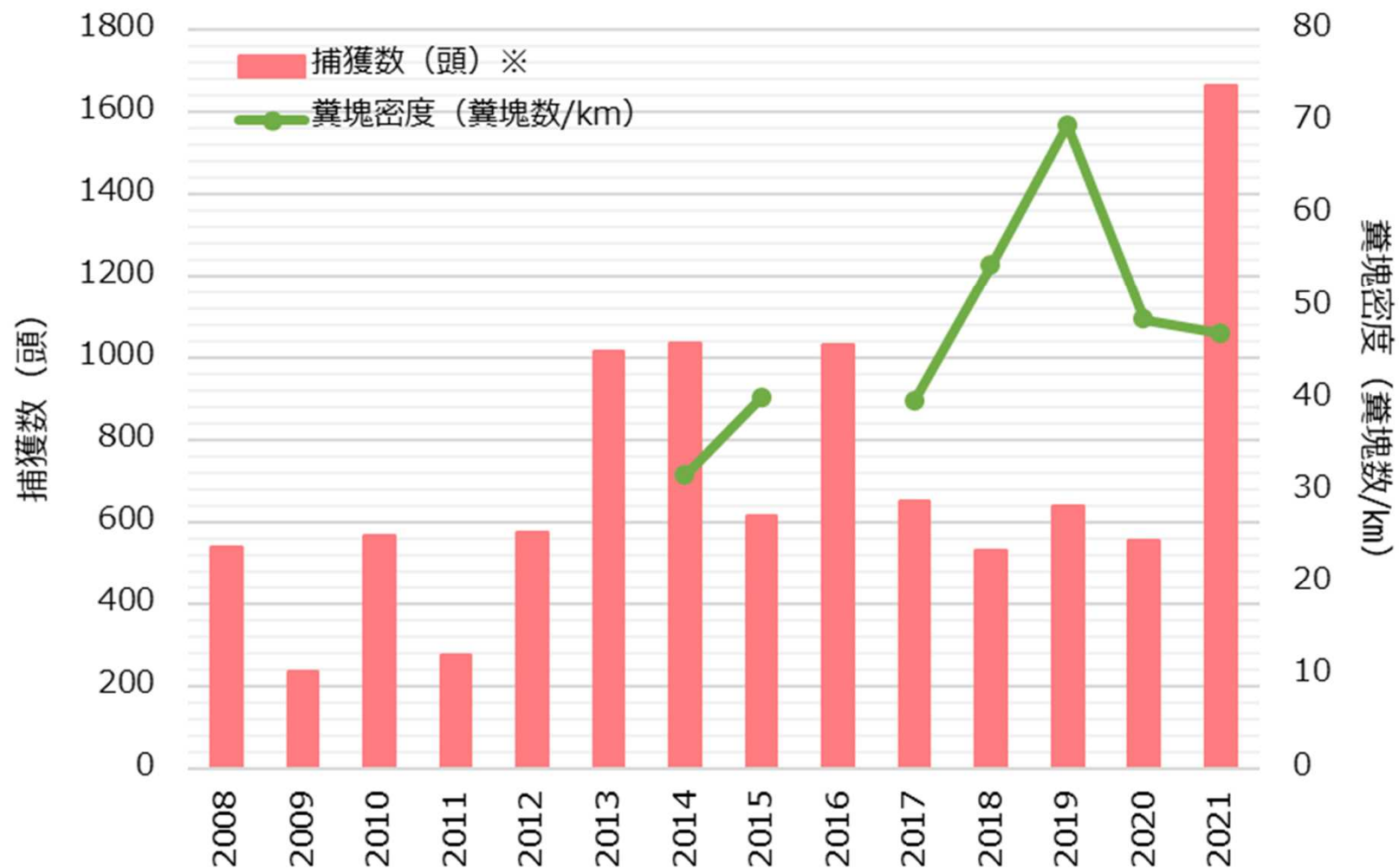
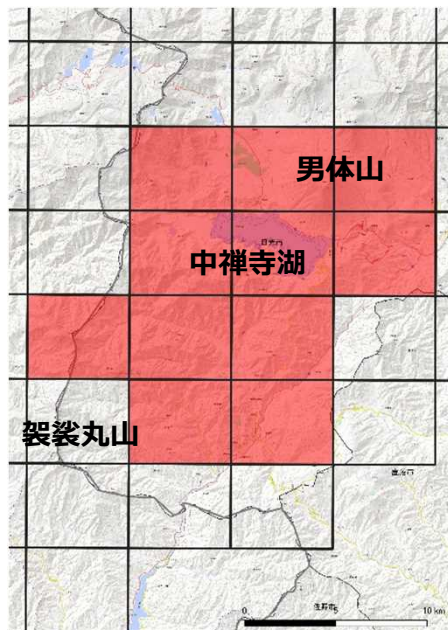
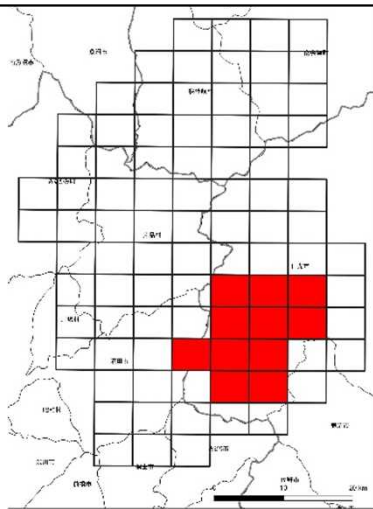




# 奥日光・足尾 (越冬地)

## 捕獲数と生息状況の推移

- 主たる越冬地での捕獲数（12～3月）は、2014年度をピークに減少。  
→2021年度に急増。
- 糞塊密度は近年減少傾向。



※捕獲数は、一部季節移動経路と重複。



## 尾瀬・日光国立公園二ホンジカ対策方針（概要版）

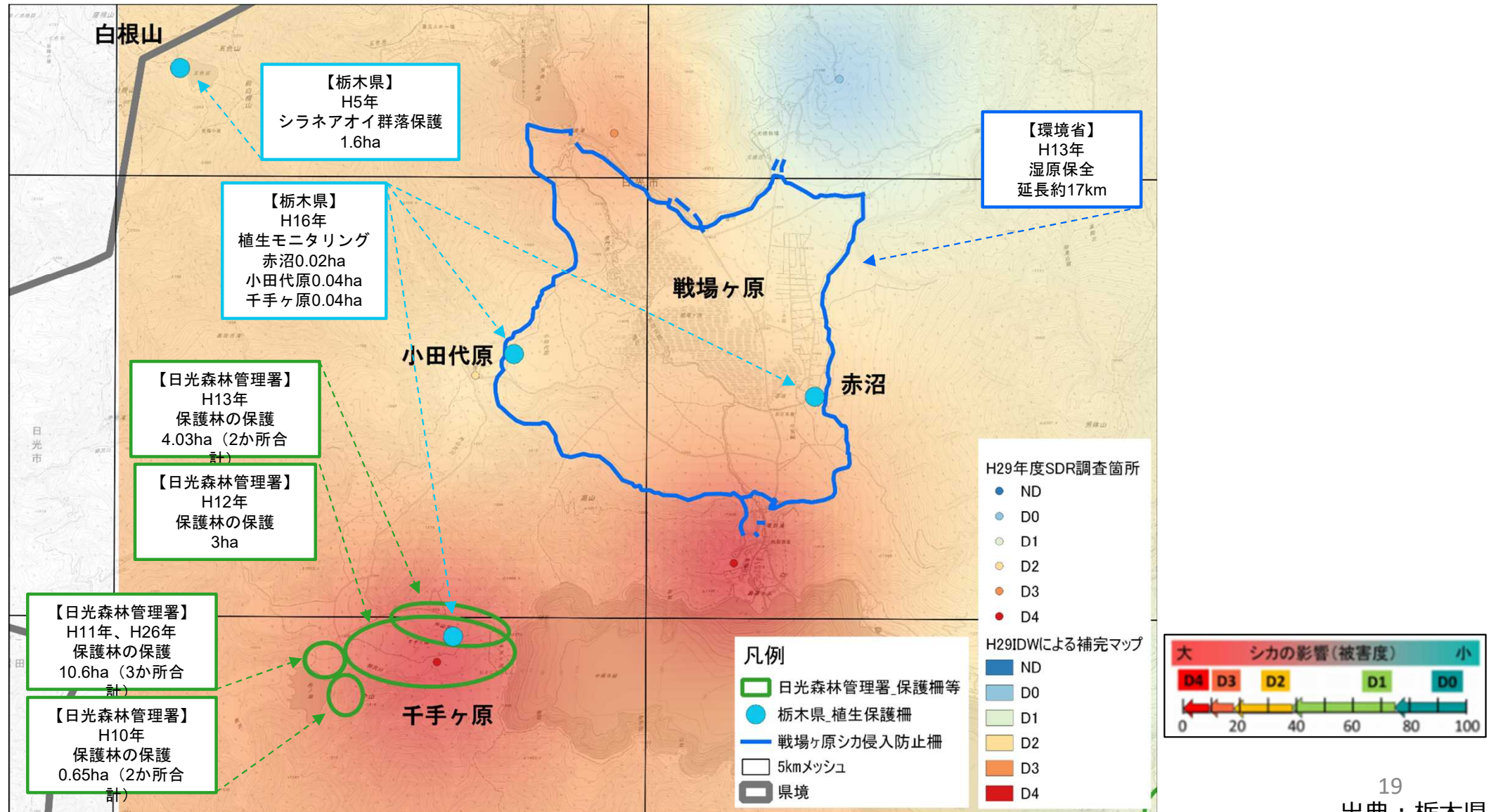
	日光国立公園 シカの生息条件下で成立した生態系	尾瀬国立公園 シカによる影響を受けずに成立した生態系
最終目標 (ゴール)	<u>シカの生息密度が適切に保たれ、植生への影響が十分に小さく、健全な植生の維持・更新に支障がない状態を維持</u>	<u>尾瀬ヶ原・尾瀬沼や高山帯へのシカの影響を排除し、湿原及び高山植生への影響が見られない状態を維持</u>
事業目標 (5年目途)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 植生への影響を低減するため、<u>シカの生息密度を現状より低密度に</u></li> <li>➤ 保全対象となる湿原・高山・森林植生を維持・回復するため、関係機関が連携して、<u>防護柵を適切に設置・維持管理</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 湿原植生への影響を低減するため、指標に基づき、<u>尾瀬ヶ原等の湿原に出没するシカの個体数を概ね半減</u></li> <li>➤ 森林、湿原及び高山植生を保護するため、関係者が連携して、<u>優先防護エリアのA及びBランクに防護柵を設置</u></li> </ul>



# 奥日光・足尾 (越冬地)

## 植生被害状況と対策

- 日光・足尾地域では、2017年度の下層植生衰退度調査（SDR）で千手ヶ原周辺と戦場ヶ原の南側でシカの影響が強くなっていることが分かっている。



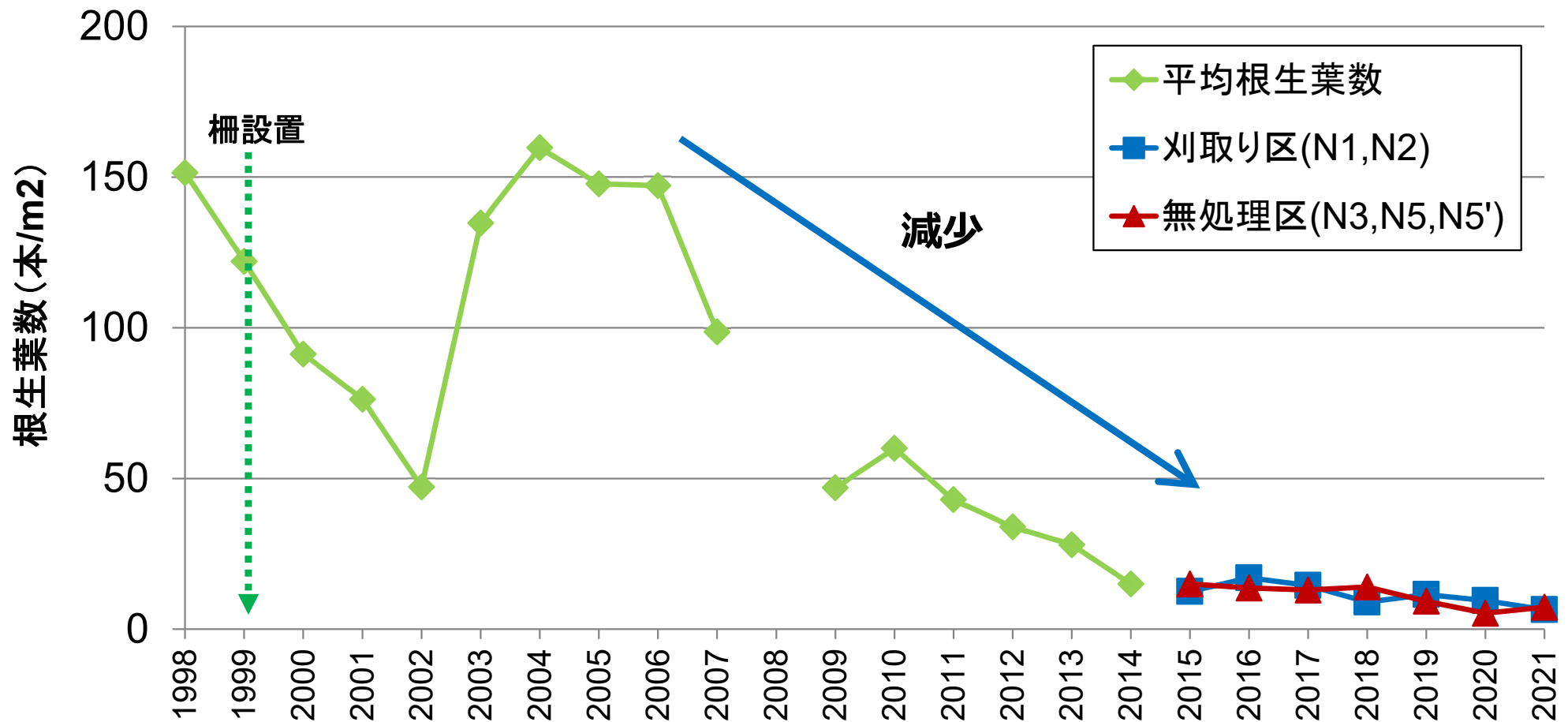


# 奥日光・足尾 (越冬地)

## シラネアオイ植生被害状況と柵設置効果 (日光白根山)

- シラネアオイ：柵内でのみ見られ、柵外では確認なし。
- 根生葉(茎の基部についた葉)数：1998年度以降大きく減少し、その後回復傾向は見られない(2020：柵内平均6.0本/4 m<sup>2</sup>)。

### 根生葉数の経年変化 (柵内)



# 目次

1. 地域全体の集計結果

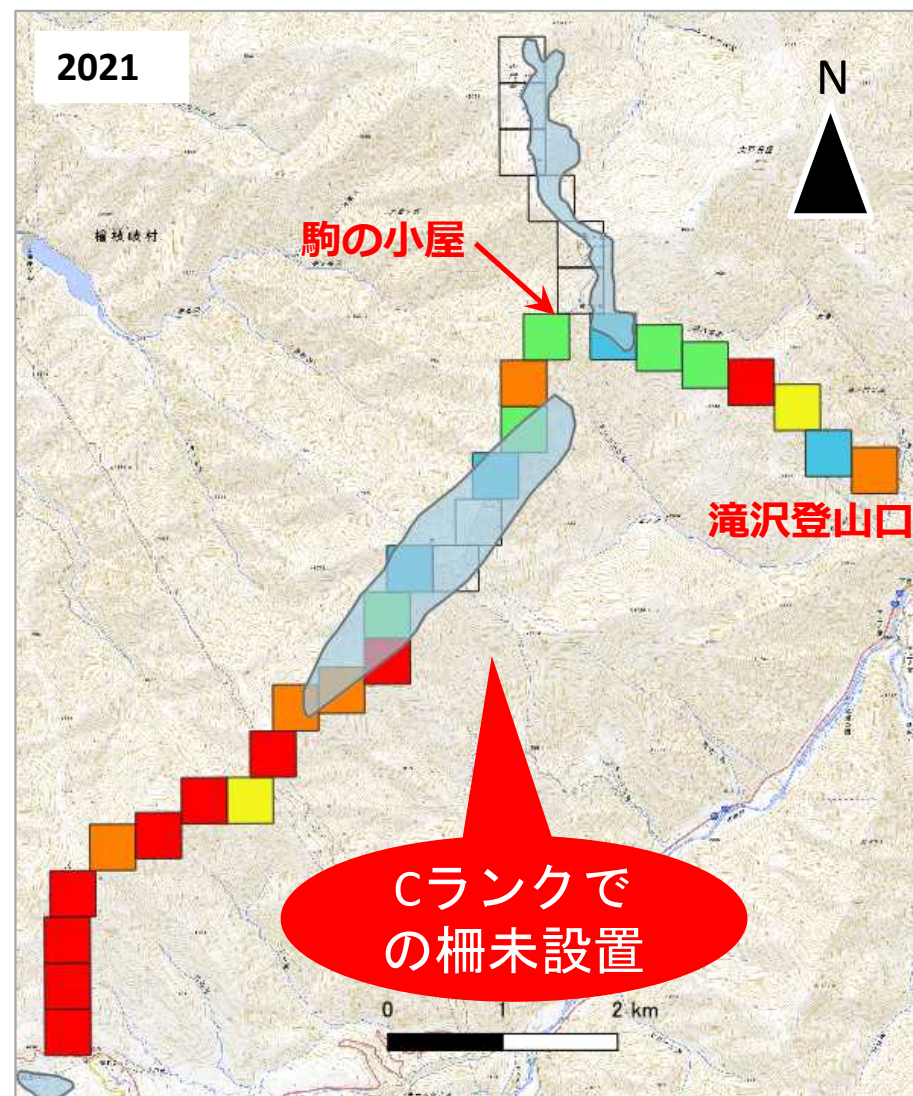
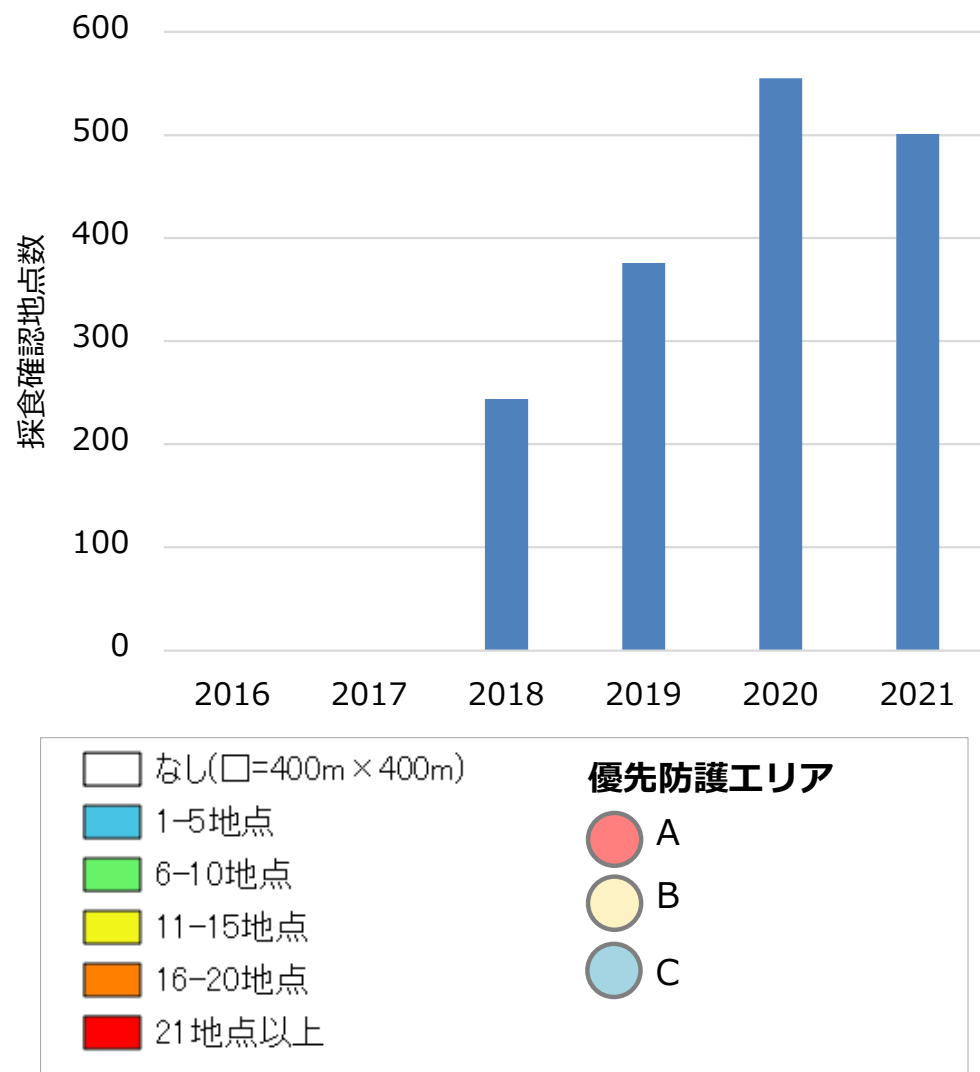
2. 事業目標の進捗状況

**〈参考〉 各地域の状況（全体）**





- ・ 滝沢登山口～駒の小屋区間の採食確認地点数が増加。
- ・ 2021年度は、2020年度までは確認されていなかった標高2000mの地点にまで採食が見られた。

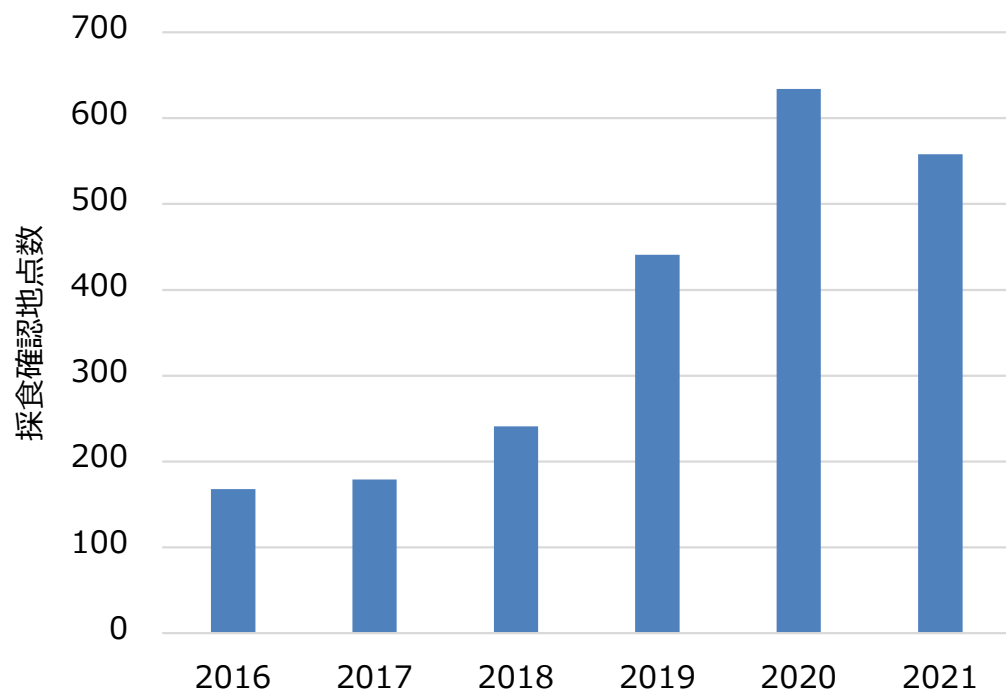




# 会津・田代 (分布拡大域)

## 高山域における植生被害状況と対策（田代・帝釈）

- 田代山山頂～木賊登山口区間、猿倉登山口～田代山山頂区間で高い採食圧を確認。
- 2021年度は田代山山頂のニッコウキスゲ（葉）への採食は再増加。



□ なし(□=400m×400m)

1-5地点

6-10地点

11-15地点

16-20地点

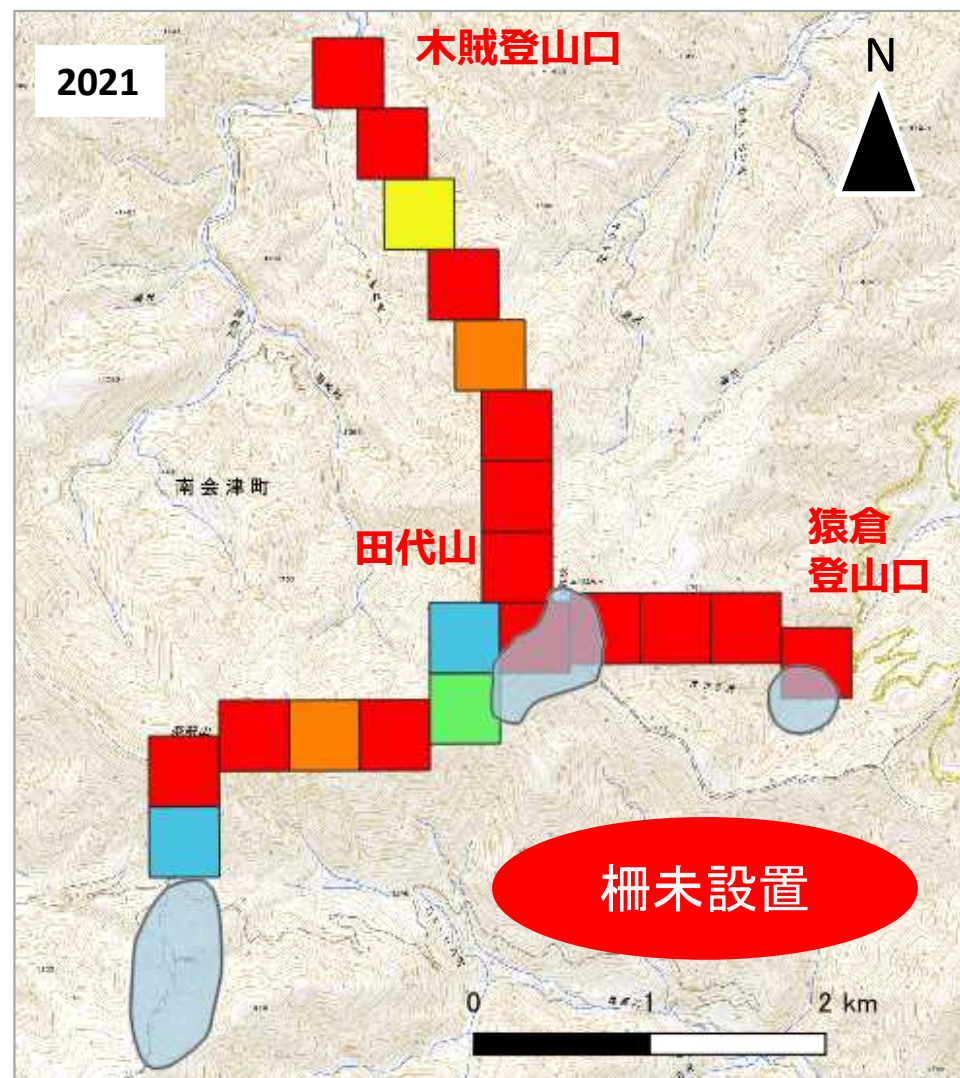
21地点以上

### 優先防護エリア

A

B

C



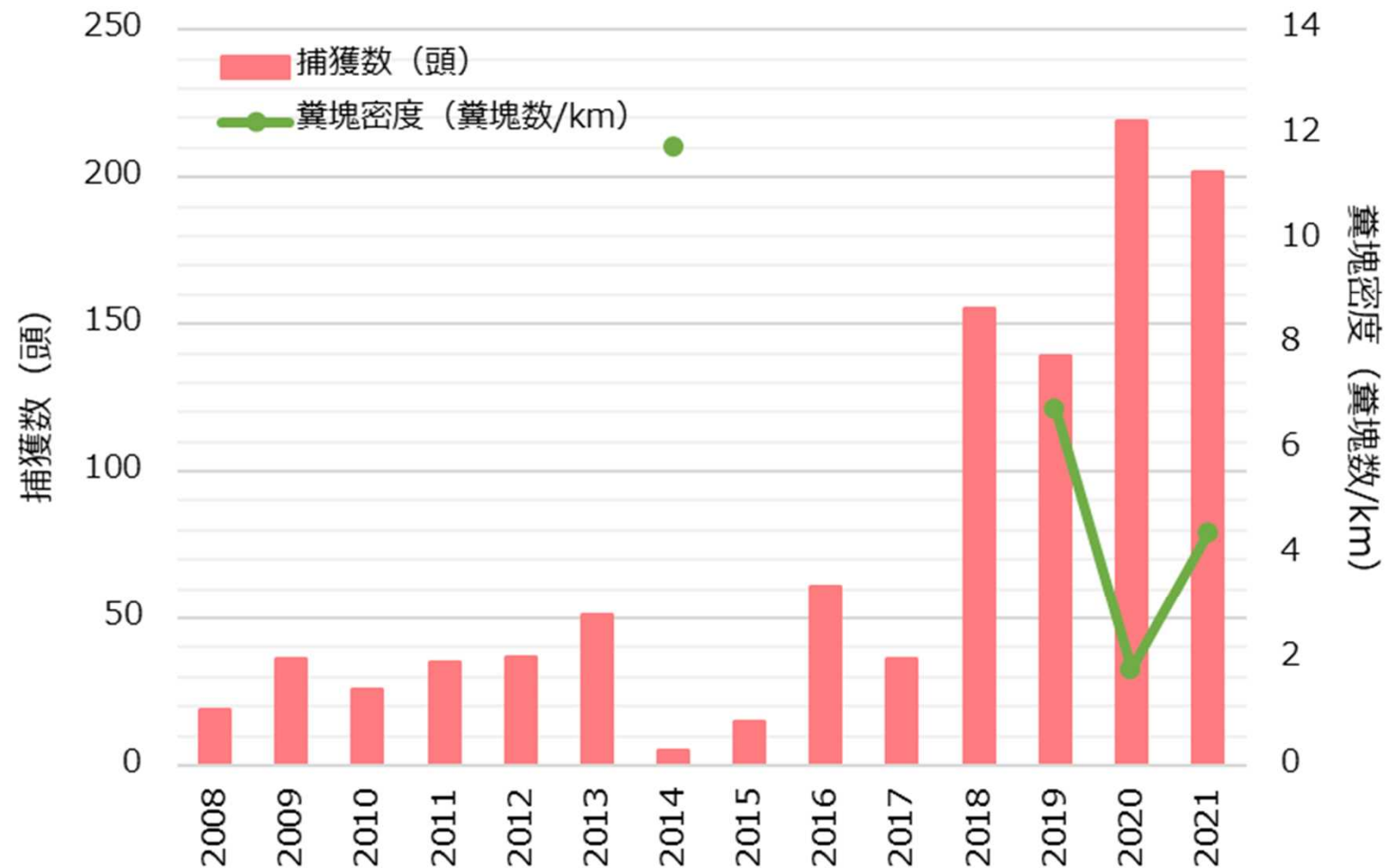
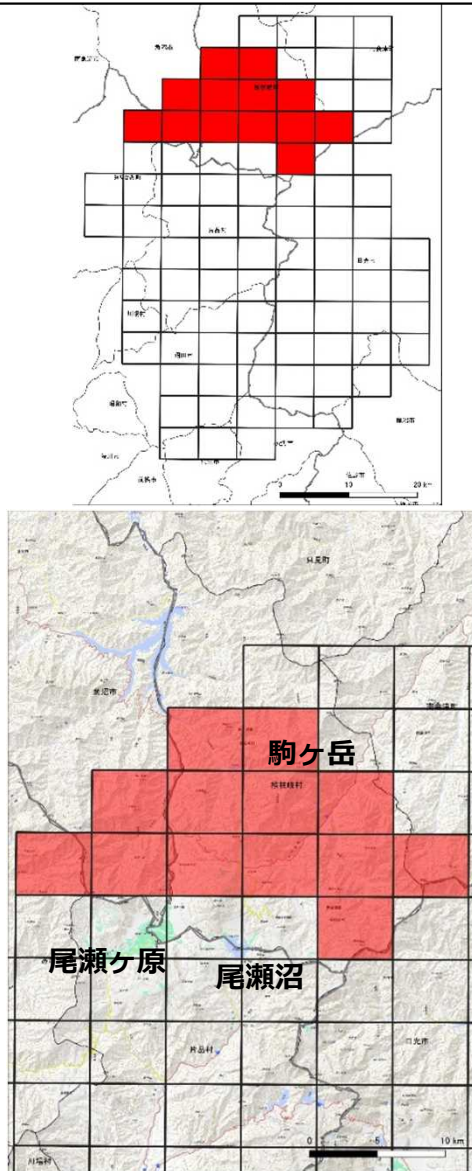




# 会津・田代 (分布拡大域)

## 捕獲数と生息状況の推移

- 分布拡大地域での捕獲数は、2018年から急激に増加し、2021年は過去2番目に捕獲数が多い。
- 糞塊密度は増減を繰り返している。

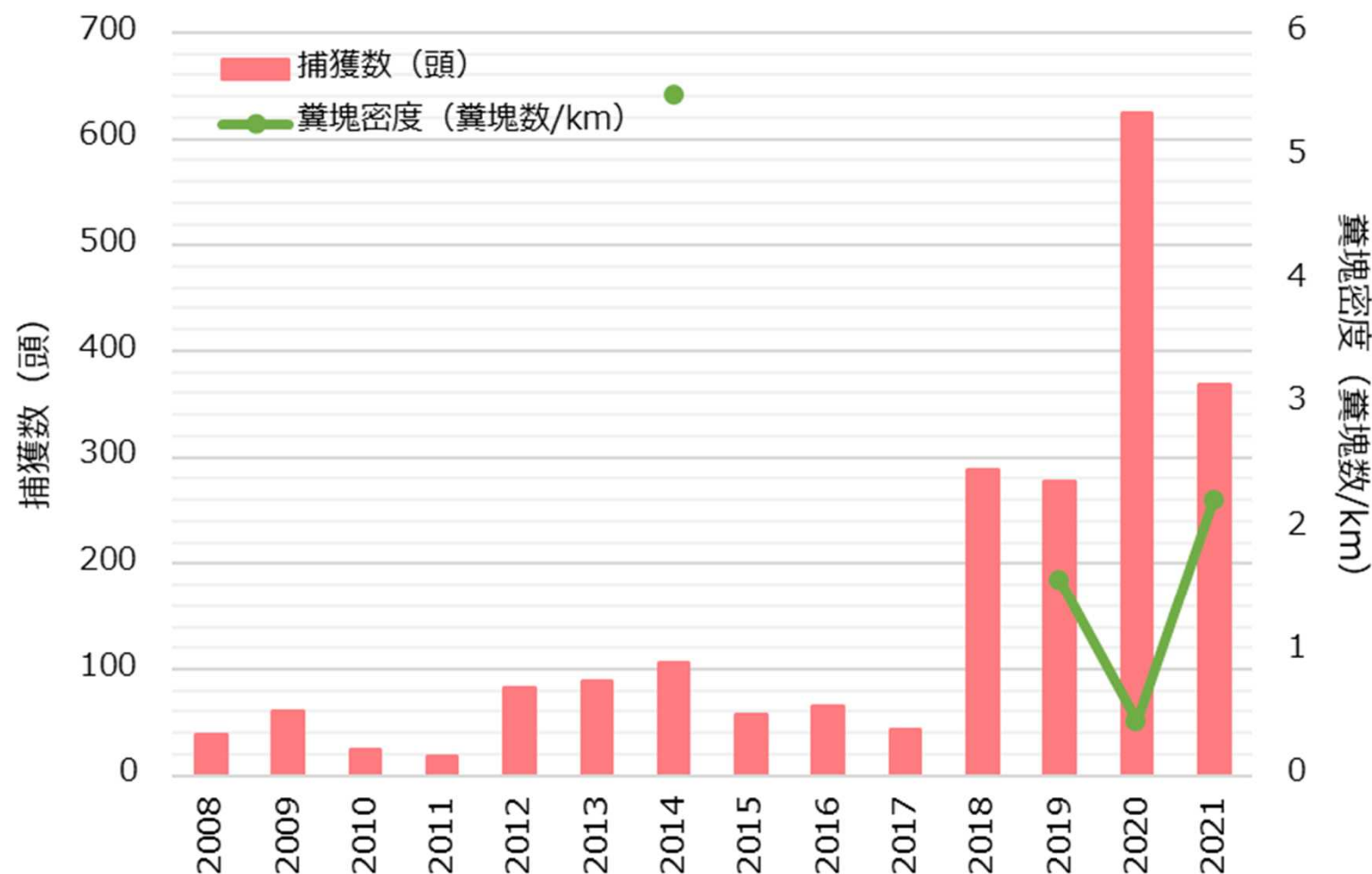
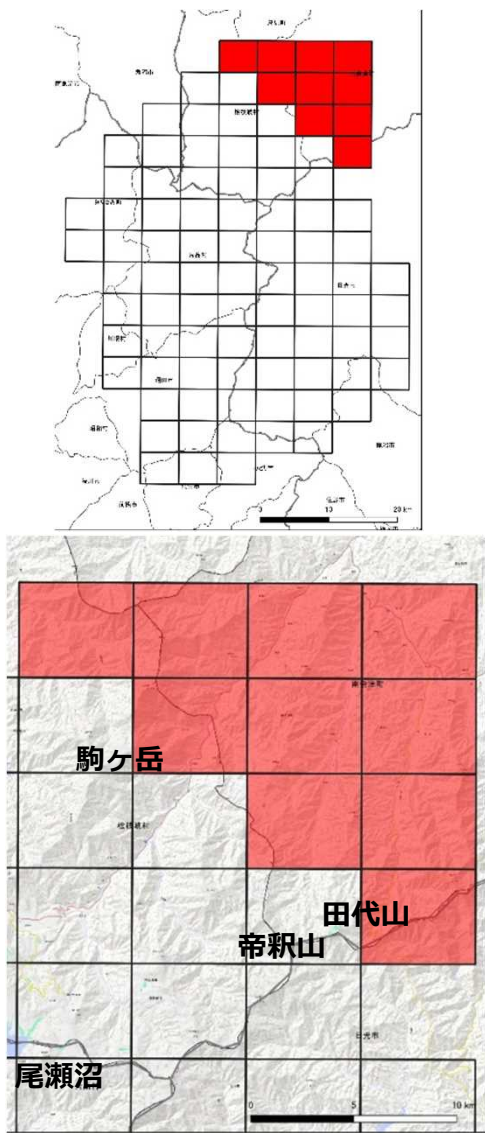




# 南会津地域 (対策範囲隣接地域)

## 捕獲数と生息状況の推移

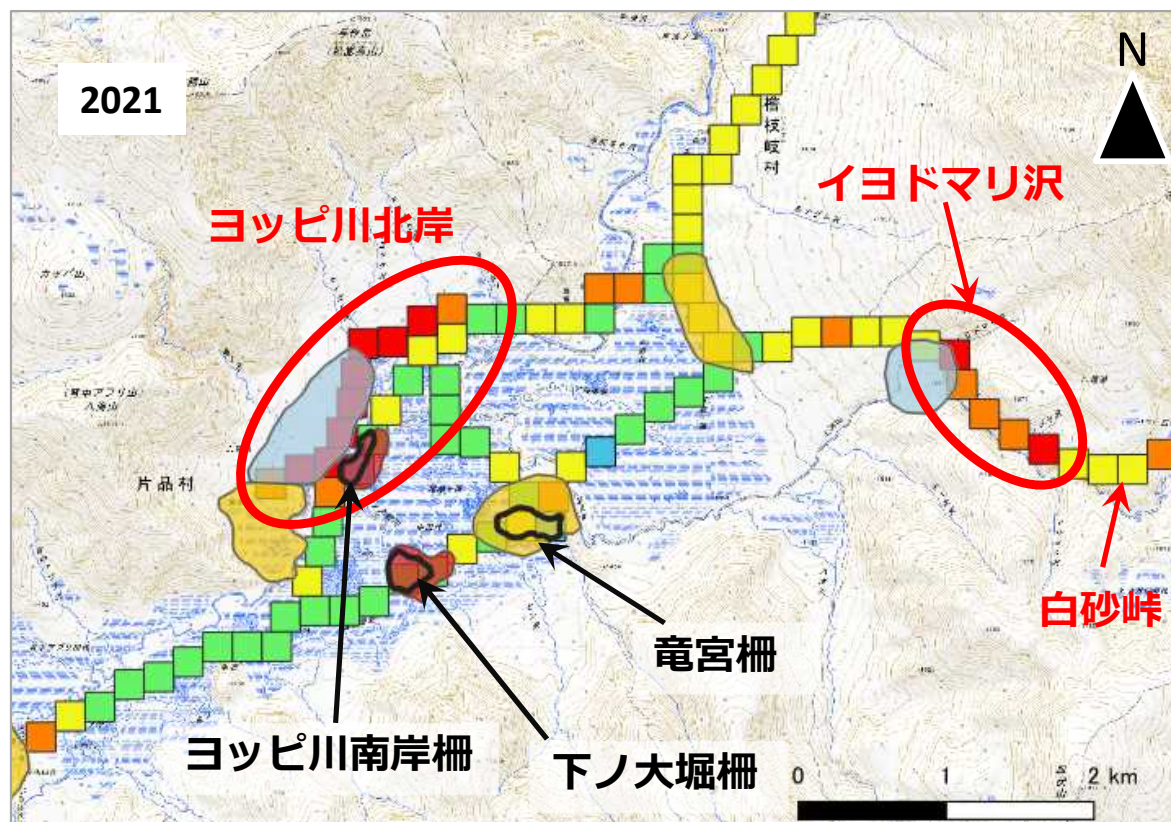
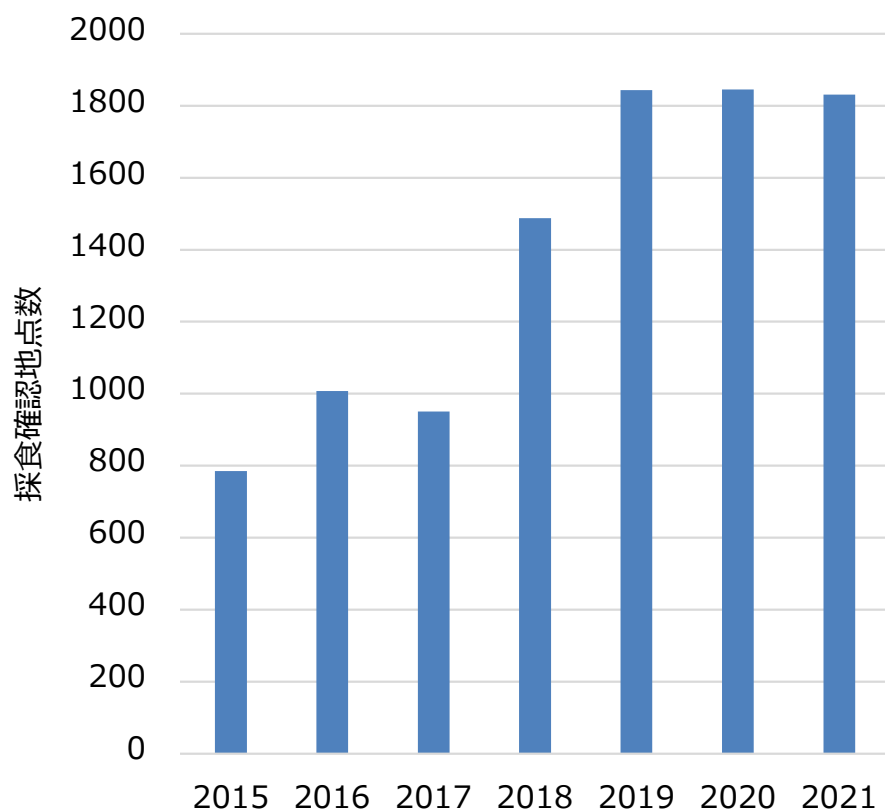
- 対策範囲隣接地域での捕獲数は、2018年度以降急激に増加し、2021年度は過去2番目に捕獲数が多い。
- 当地域の糞塊密度はかなり低いため、年ごとの誤差が大きい。







- 採食確認地点数は増加傾向にあったが、近年は高止まり。
- ヨッピー川北岸、白砂峠～イヨドマリ沢間で採食が集中。
- 2021年度は、竜宮に新規柵設置。



なし(□=200m×200m)

1-10地点

11-30地点

31-50地点

51地点以上

優先防護エリア

A

B

C

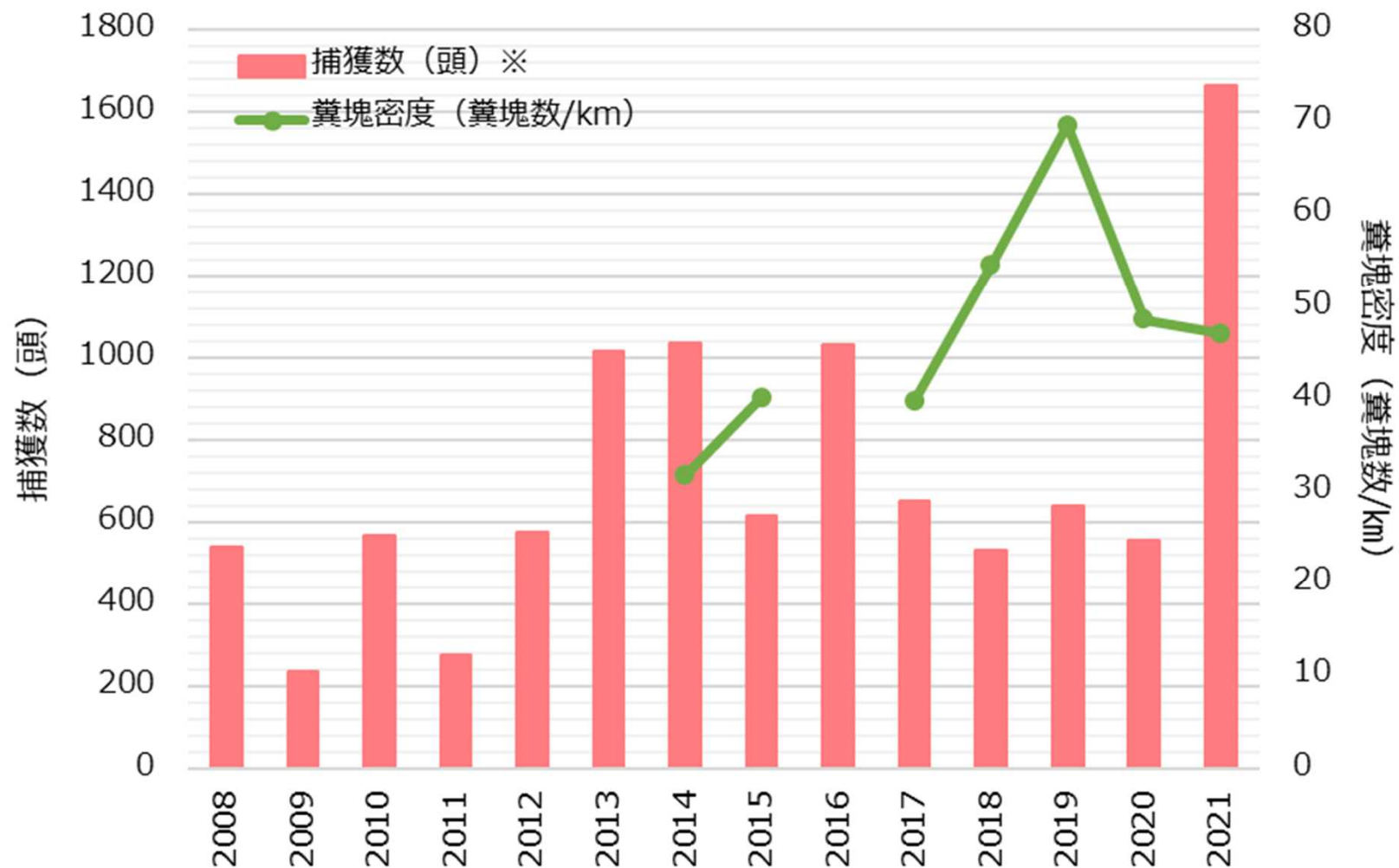
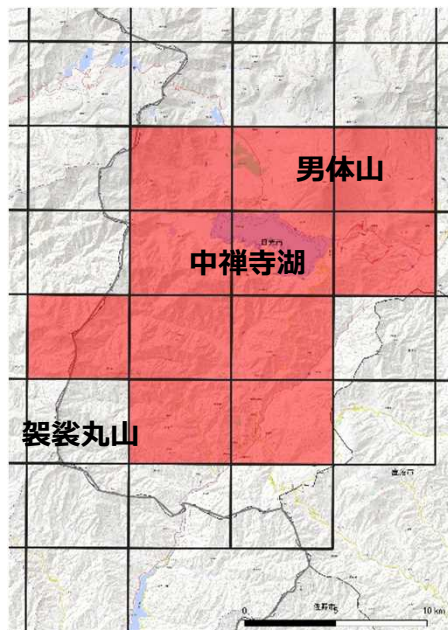
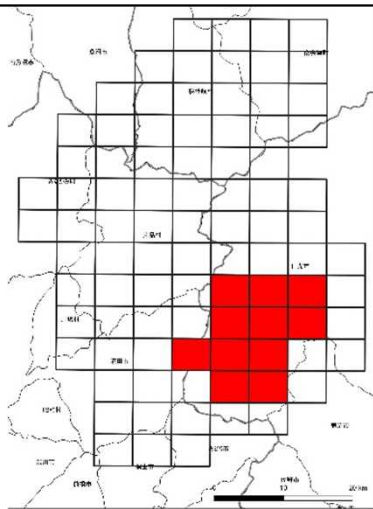
シカ柵



# 奥日光・足尾 (越冬地)

## 捕獲数と生息状況の推移

- 主たる越冬地での捕獲数（12～3月）は、2014年度をピークに減少。  
→2021年度に急増。
- 糞塊密度は近年減少傾向。



※捕獲数は、一部季節移動経路と重複。





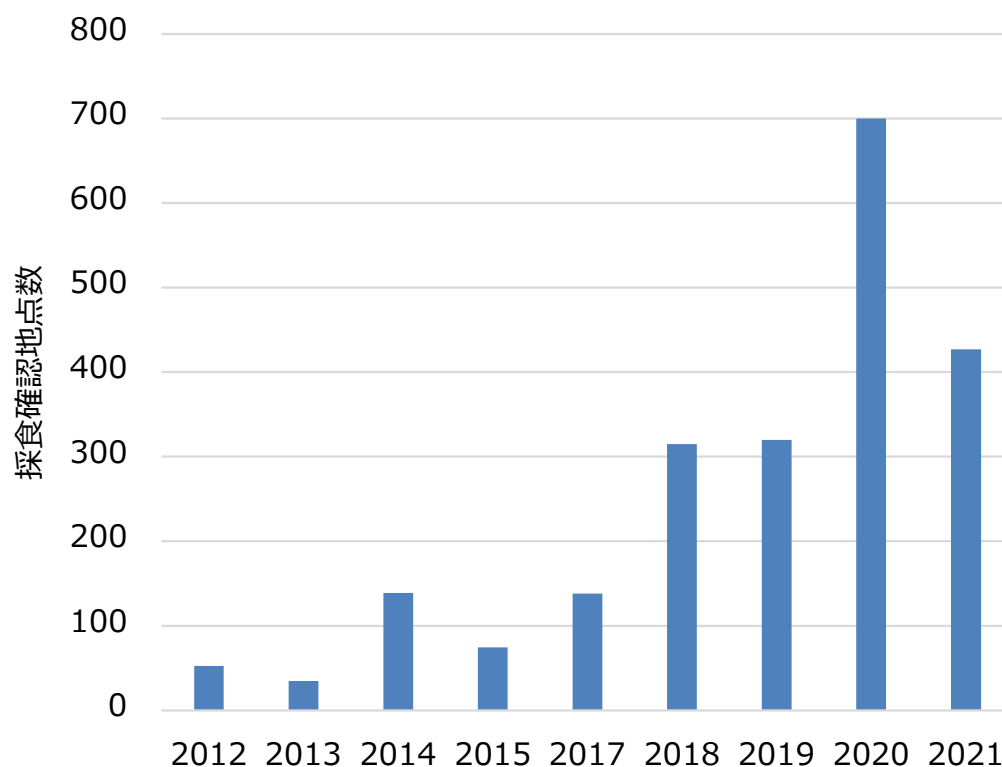
# 至仏山

(尾瀬ヶ原・尾瀬沼)

## 高山域における植生被害状況と対策(至仏山)

高山

- 採食確認地点数は増加傾向。
- 2021年度の採食地点数は、2020年度より減少した。



□ なし(□=400m×400m)

1-5地点

6-10地点

11-15地点

16-20地点

21地点以上

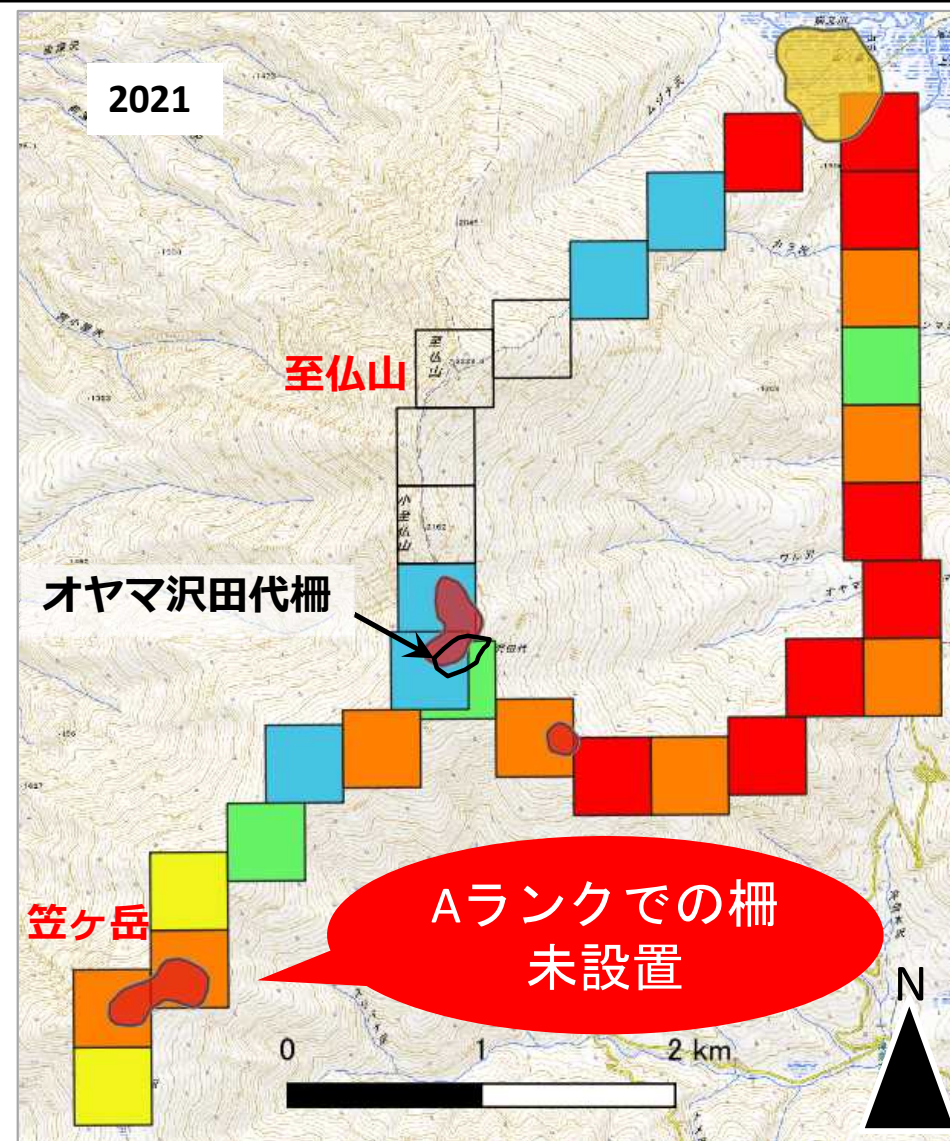
### 優先防護エリア

A

B

C

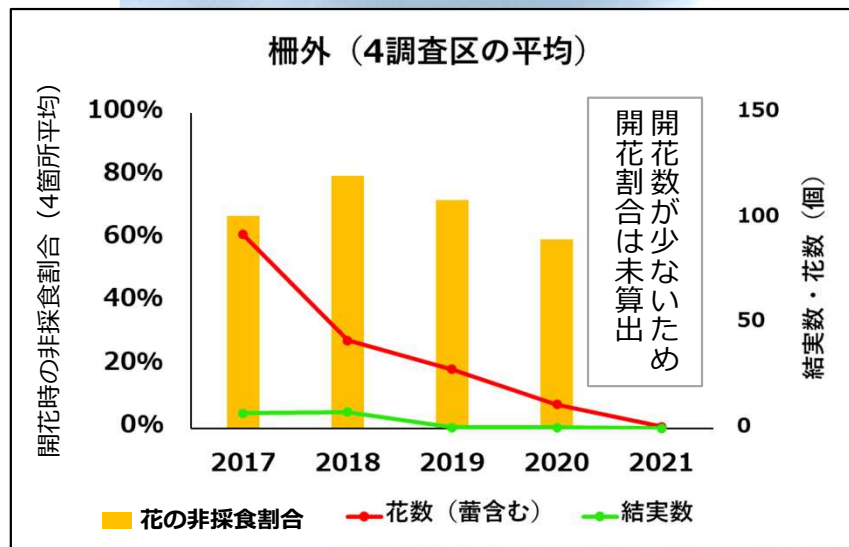
シカ柵





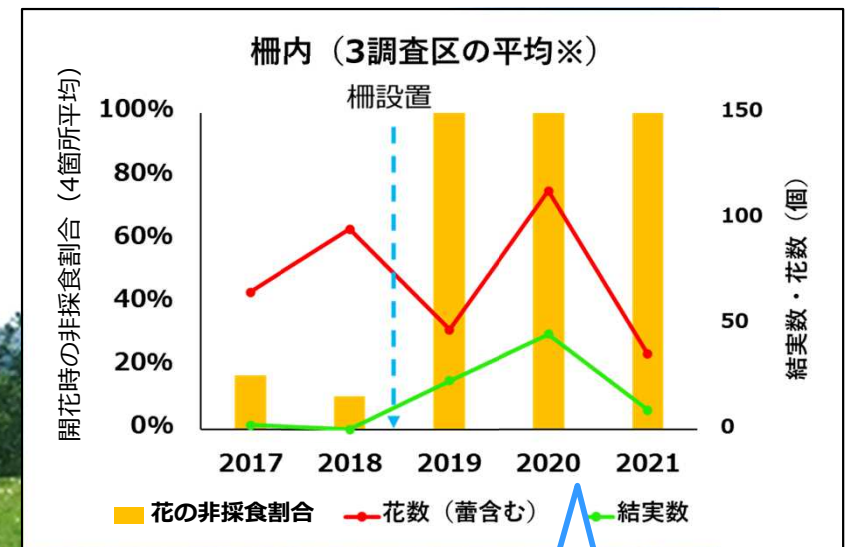
- 柵外では花数が激減。
- 柵内の花は採食されず、花の非採食割合は100%。

### 柵外



### 柵内

※2017・2018年は1調査区のデータを利用



柵設置以降、  
花の非採食割合100%  
(花の採食なし)





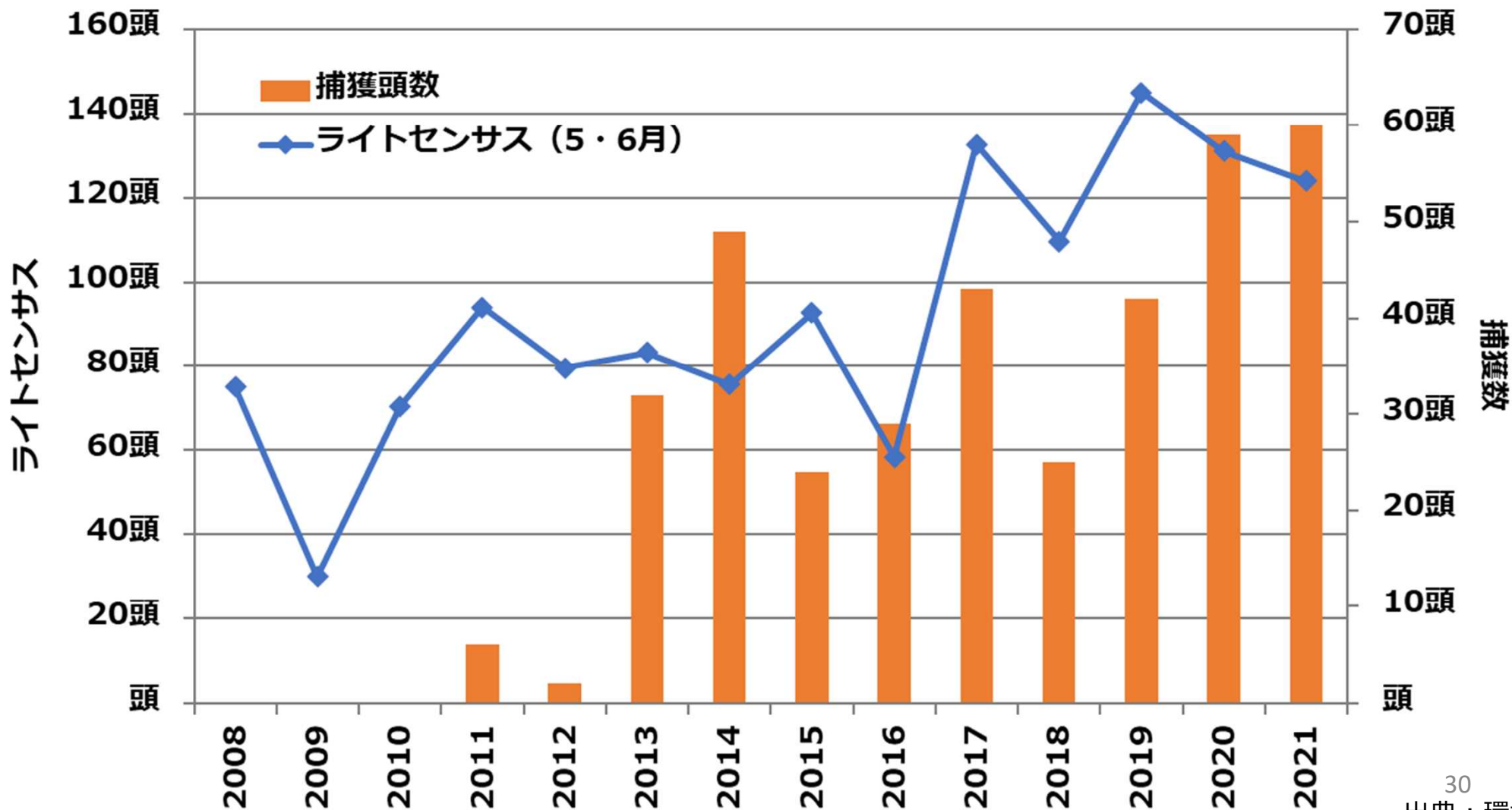
# 尾瀬ヶ原

(尾瀬ヶ原・尾瀬沼)

## 捕獲数と生息状況の推移

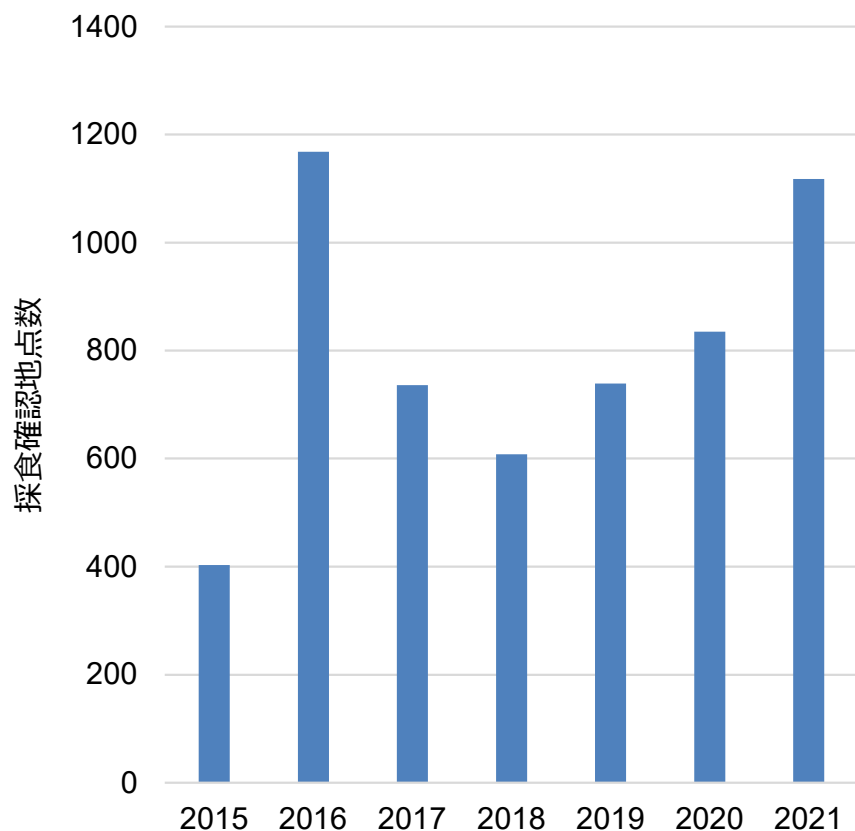
- 尾瀬ヶ原での捕獲数は2013年度以降増減を繰り返している。※2021年度過去最高
- 5・6月のライトセンサスの平均確認頭数は増加傾向であったが、近年やや減少。

### 捕獲頭数と平均確認個体数の推移

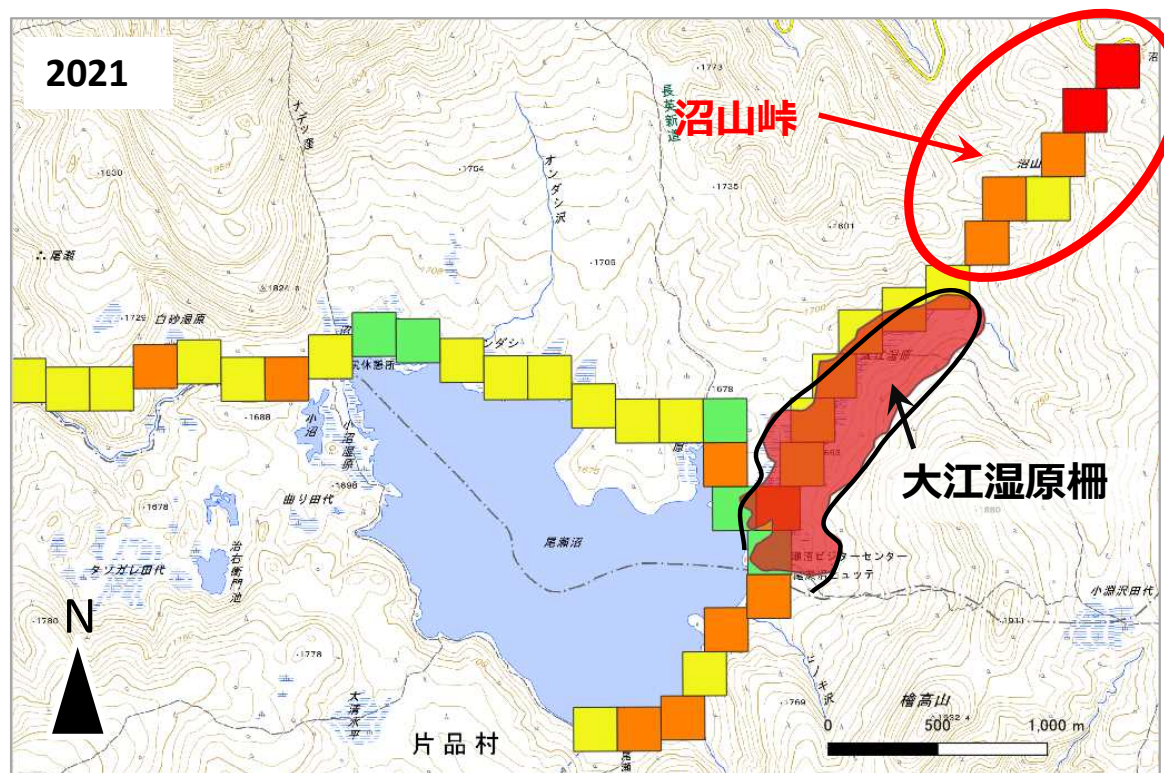




- 採食確認地点数は近年増加傾向。
- 沼山峠で採食が集中。



※調査は毎年柵設置前に実施



なし(□=200m×200m)

1-10地点

11-30地点

31-50地点

51地点以上

優先防護エリア

A

B

C

シカ柵

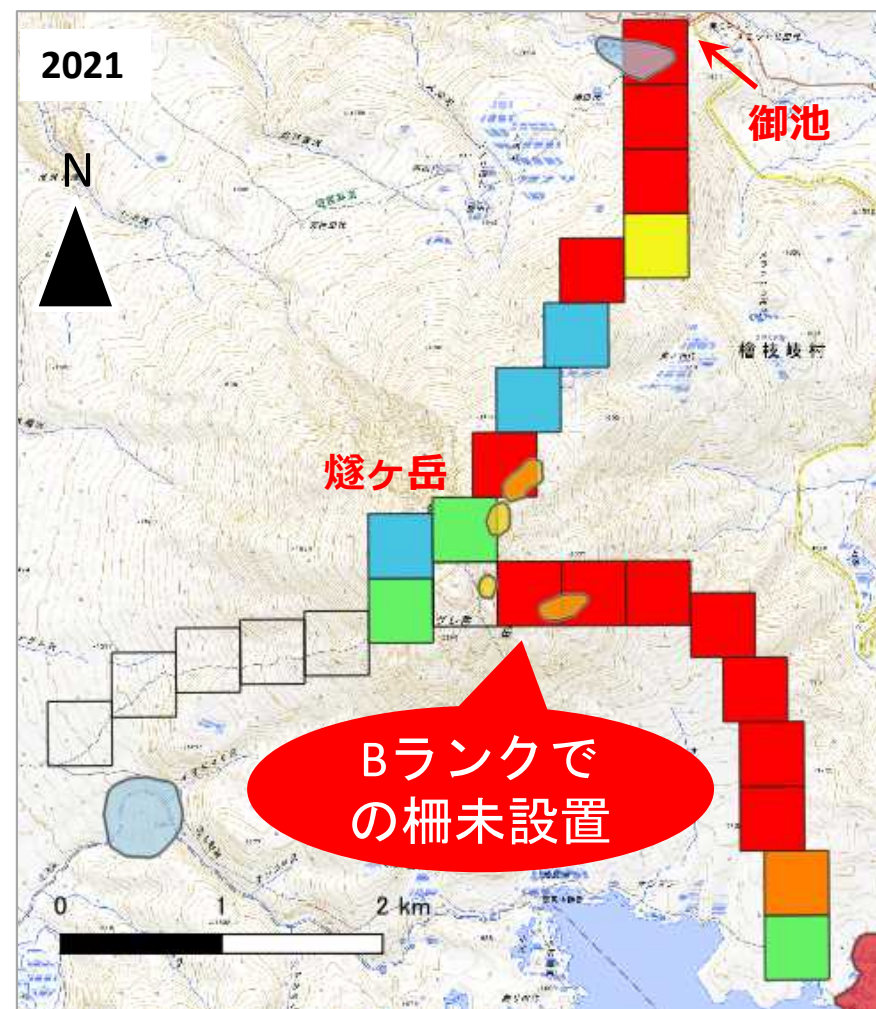
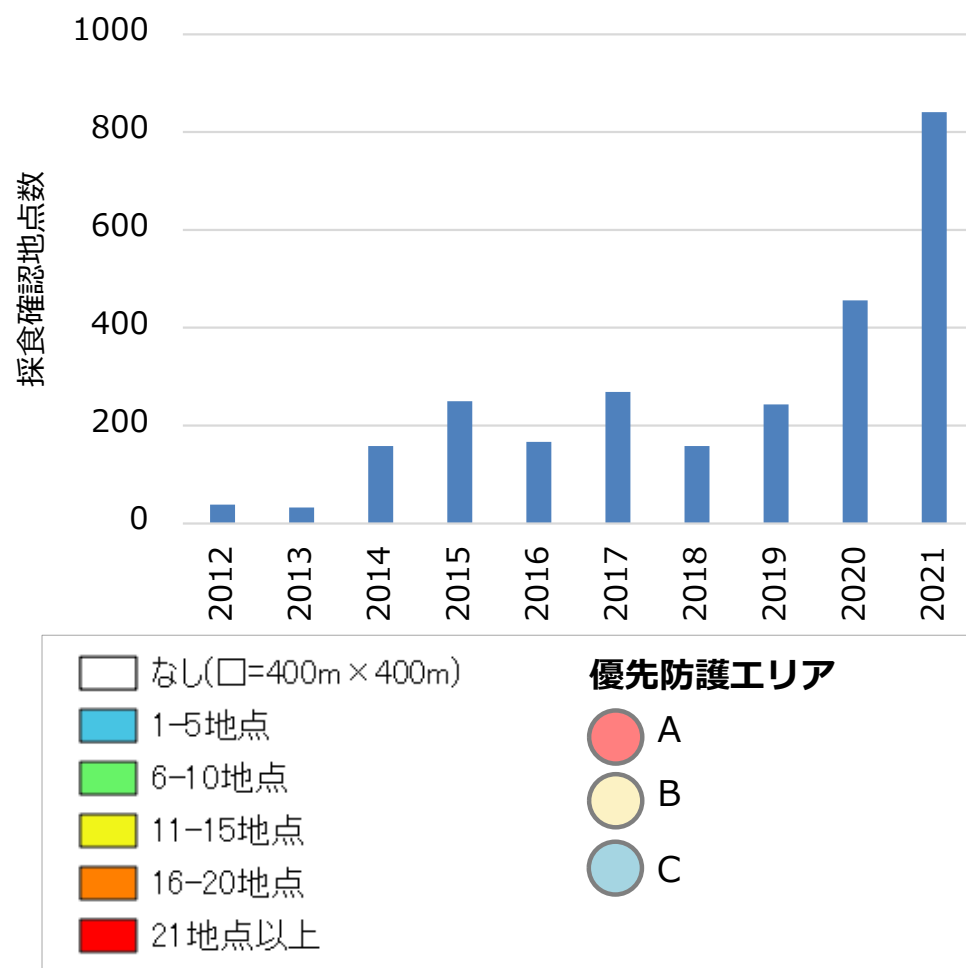


# 燧ヶ岳 高山域における植生被害状況と対策(燧ヶ岳)

## (尾瀬ヶ原・尾瀬沼)

高山

- 燧ヶ岳東側の採食確認地点数は近年急増。
- 2021年度キヌガサソウは個体確認できず、2022年度の花期に調査を実施し、柵設置個所を検討中。
- 御池付近の採食地点数は2020年度より増加。







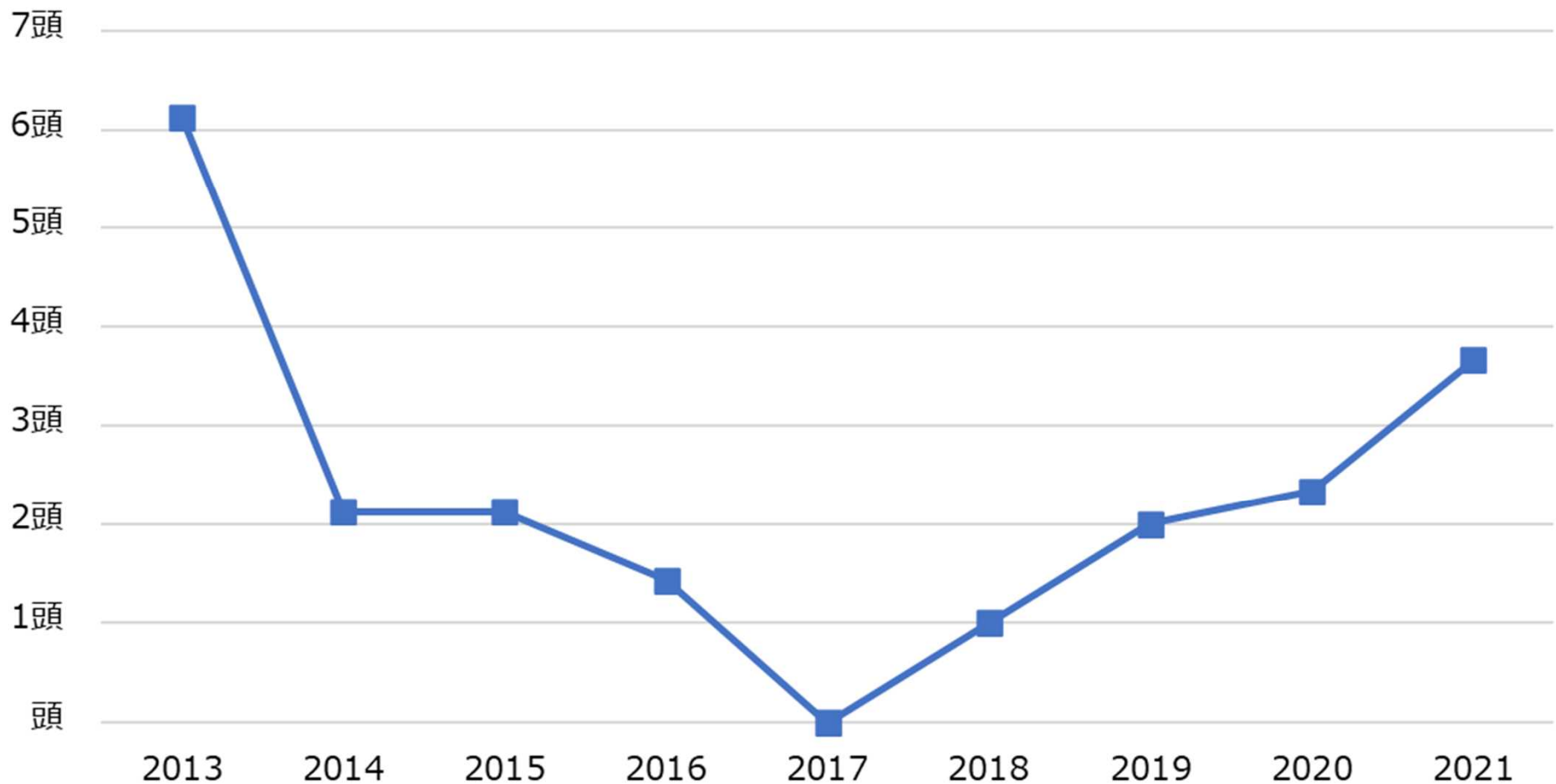
# 大江湿原 植生保護柵設置の効果（大江湿原）

（尾瀬ヶ原・尾瀬沼）

湿原

- ライトセンサスでは、柵設置期間中のシカの侵入が近年増加傾向。  
→柵の対策強化が必要。

柵設置後（6月下旬以降）のライトセンサスにおける平均確認頭数



柵設置開始





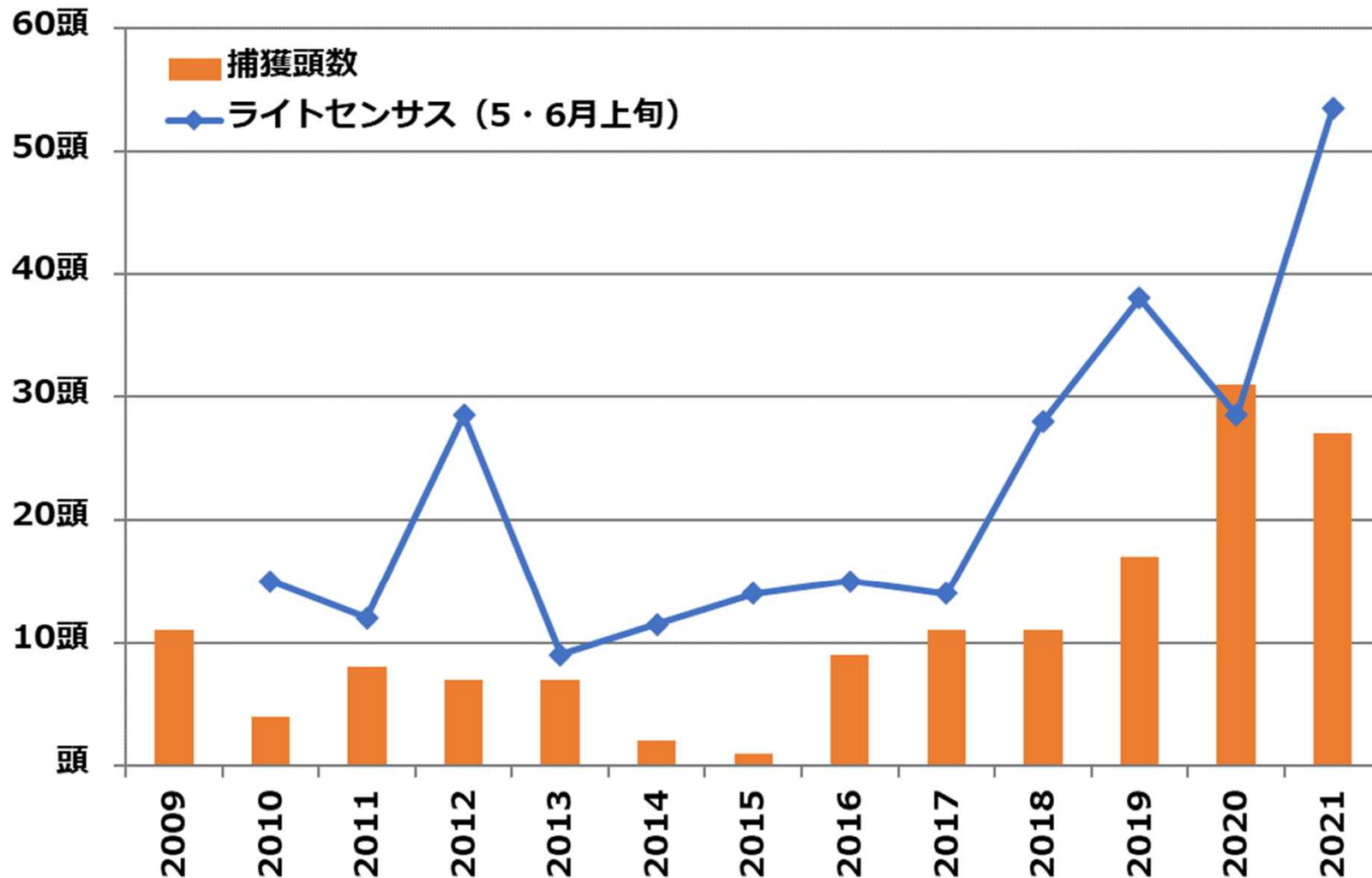
# 尾瀬沼

(尾瀬ヶ原・尾瀬沼)

## 捕獲数と生息状況の推移

- 尾瀬沼での捕獲数は増加傾向。
- 5～6月上旬（大江湿原柵設置前）のライトセンサスの平均確認頭数は、近年激増。

捕獲頭数と平均確認個体数の推移

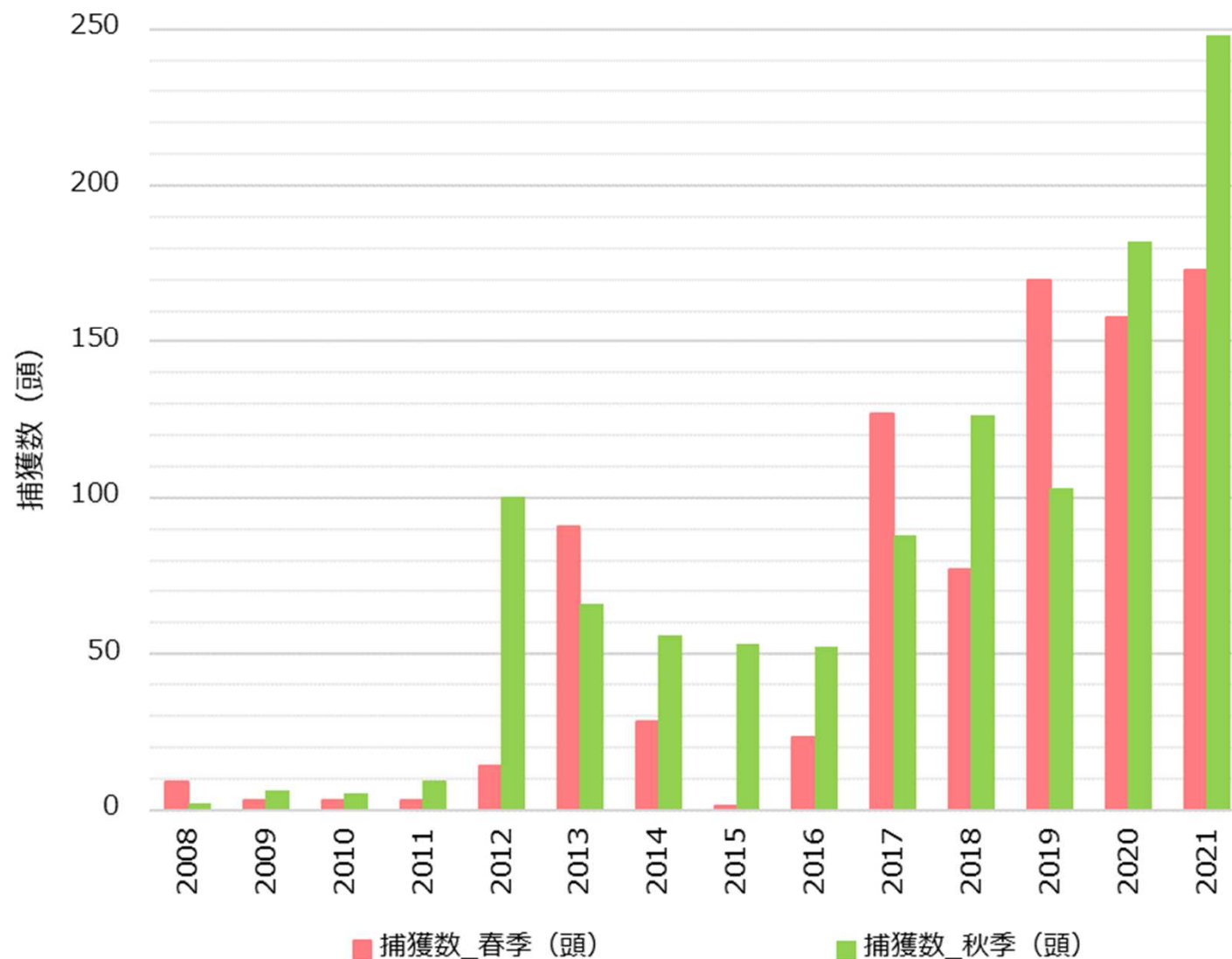
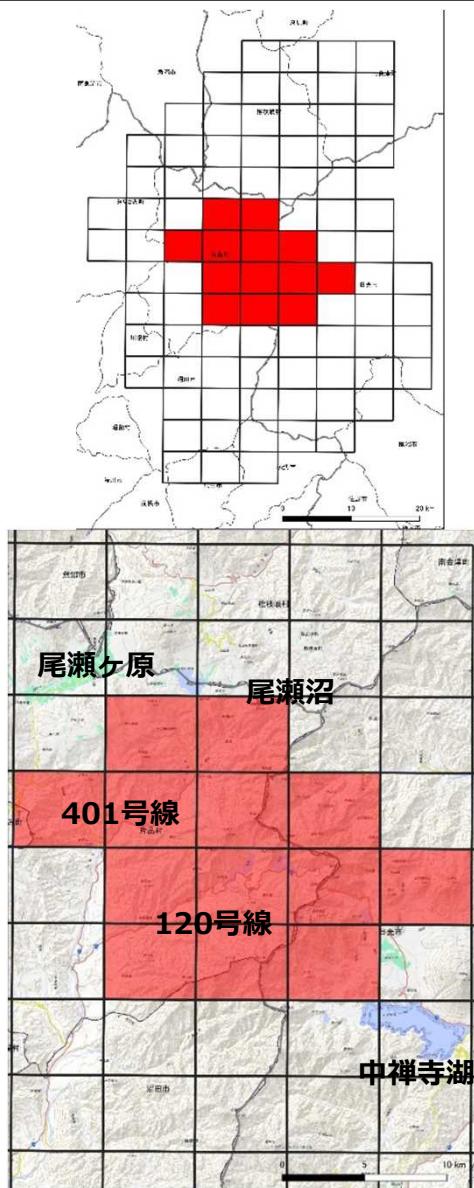




# 片品村・日光市 (移動経路上)

## 捕獲数の推移

- 移動経路上での捕獲数は春季（3～5月）、秋季（10～12月）ともに増加傾向。  
※2021年度過去最高

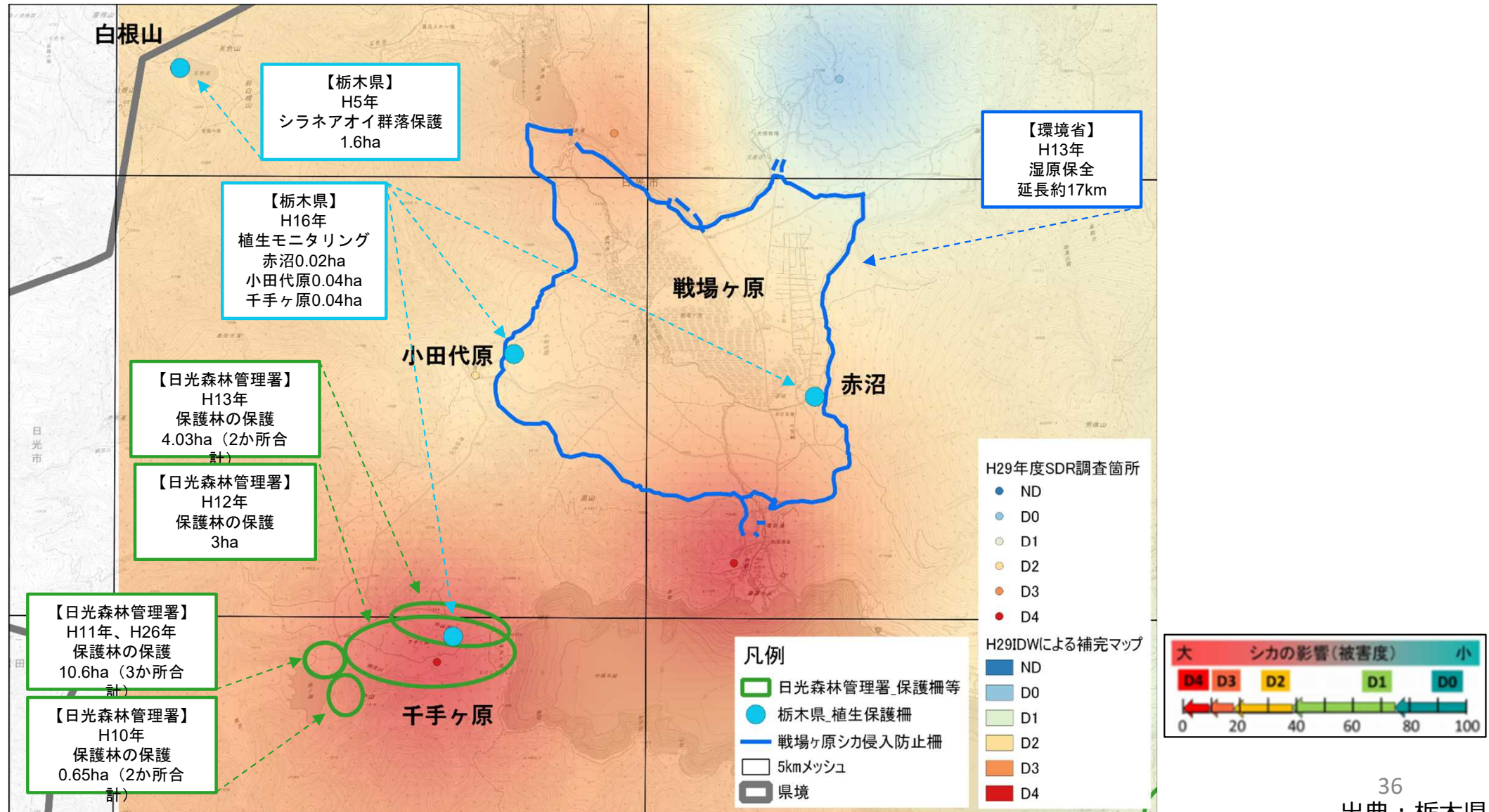




# 奥日光・足尾 (越冬地)

## 植生被害状況と対策

- 日光・足尾地域では、2017年度の下層植生衰退度調査（SDR）で千手ヶ原周辺と戦場ヶ原の南側でシカの影響が強くなっていることが分かっている。



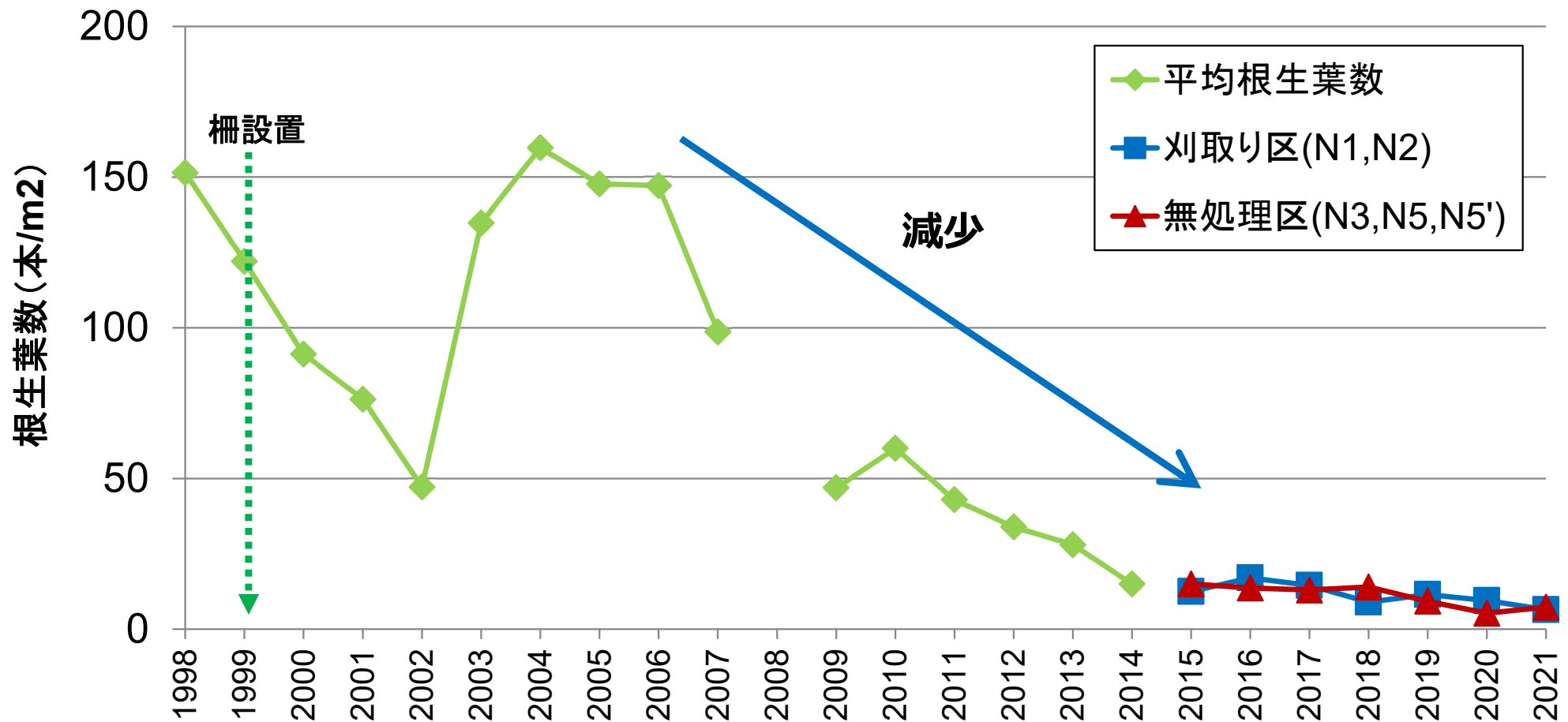


# 奥日光・足尾 (越冬地)

## シラネアオイ植生被害状況と柵設置効果 (日光白根山)

- シラネアオイ：柵内でのみ見られ、柵外では確認なし。
- 根生葉(茎の基部についた葉)数：1998年度以降大きく減少し、その後回復傾向は見られない(2020：柵内平均6.0本/4 m<sup>2</sup>)。

根生葉数の経年変化 (柵内)



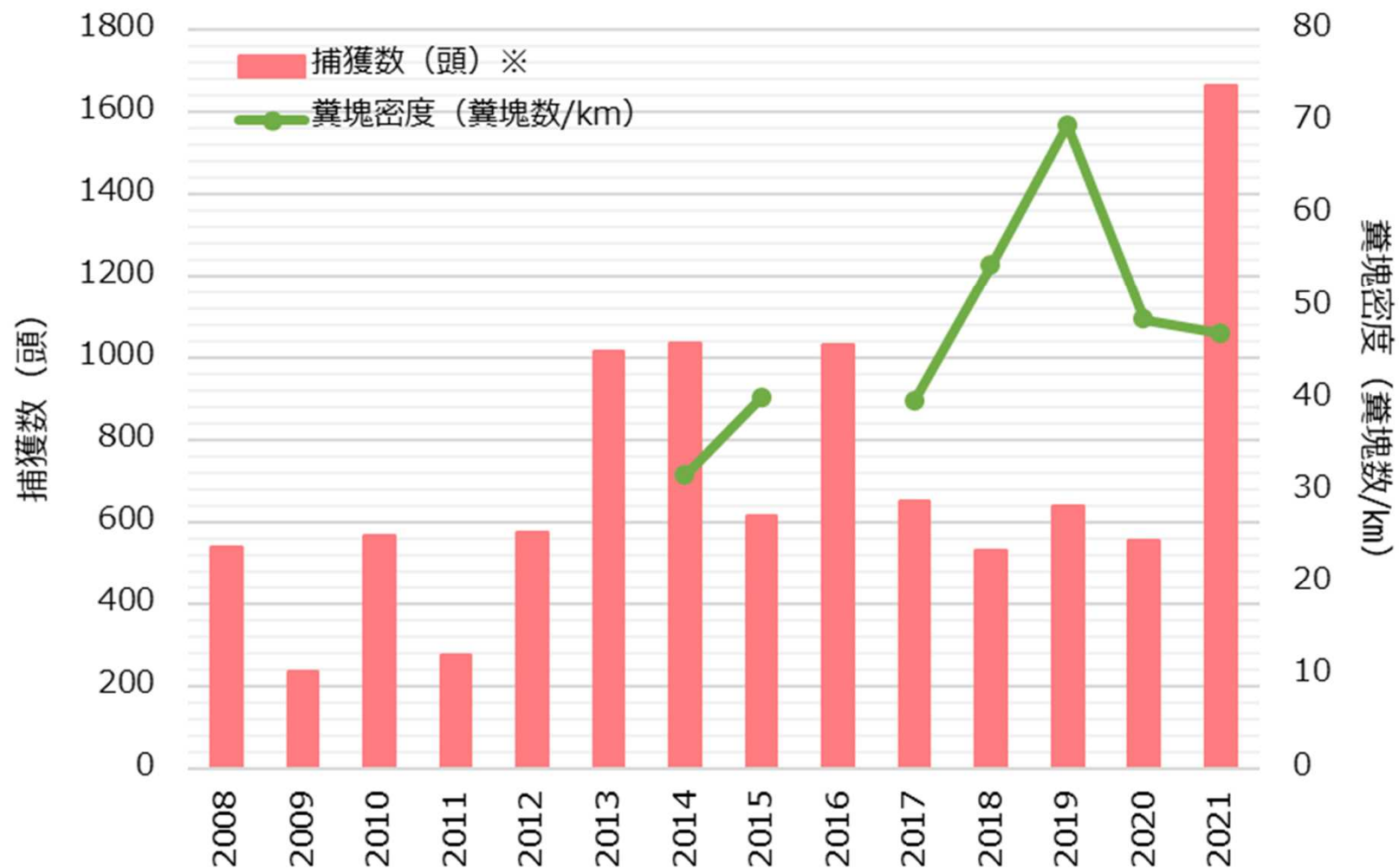
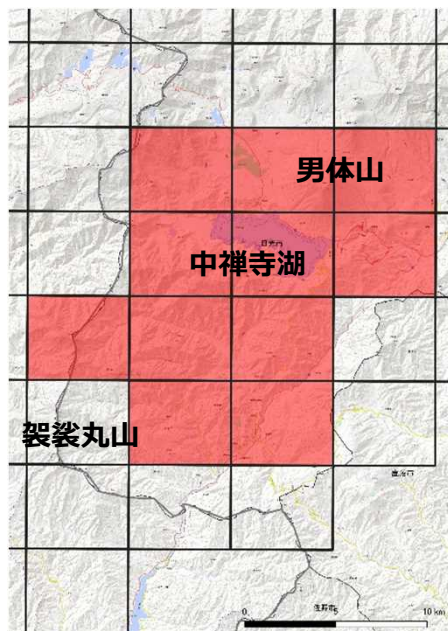
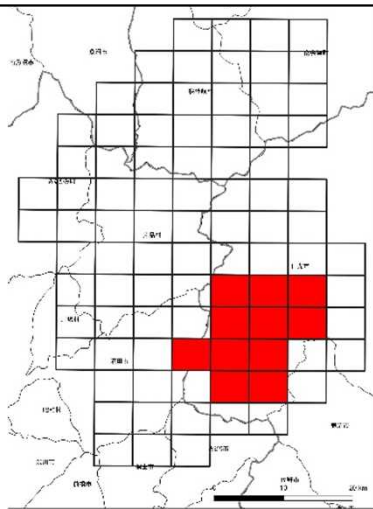




# 奥日光・足尾 (越冬地)

## 捕獲数と生息状況の推移

- 主たる越冬地での捕獲数（12～3月）は、2014年度をピークに減少  
→2021年度に急増。
- 糞塊密度は近年減少傾向。



※捕獲数は、一部季節移動経路と重複。

# 2022（令和4）年度対策実施状況

2022(令和4)年8月24日

尾瀬・日光国立公園二ホンジカ対策広域協議会



# 2022年春の移動状況（GPS追跡）



- ・ 3個体とも、奥鬼怒林道を通過。
- ・ 尾瀬沼で装着した2003は、雪の影響か、例年より到着が遅かった。

個体	移動開始	移動終了
2003	3/15	6/11
2101	3/13	5/15
2102	3/12	5/7



## 尾瀬・日光国立公園二ホンジカ対策方針（概要版）

	日光国立公園 シカの生息条件下で成立した生態系	尾瀬国立公園 シカによる影響を受けずに成立した生態系
最終目標 (ゴール)	<u>シカの生息密度が適切に保たれ、植生への影響が十分に小さく、健全な植生の維持・更新に支障がない状態を維持</u>	<u>尾瀬ヶ原・尾瀬沼や高山帯へのシカの影響を排除し、湿原及び高山植生への影響が見られない状態を維持</u>
事業目標 (5年目途)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 植生への影響を低減するため、<u>シカの生息密度を現状より低密度に</u></li> <li>➤ 保全対象となる湿原・高山・森林植生を維持・回復するため、関係機関が連携して、<u>防護柵を適切に設置・維持管理</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ <u>湿原植生への影響を低減するため、指標に基づき、尾瀬ヶ原等の湿原に出没するシカの個体数を概ね半減</u></li> <li>➤ 森林、湿原及び高山植生を保護するため、関係者が連携して、<u>優先防護エリアのA及びBランクに防護柵を設置</u></li> </ul>



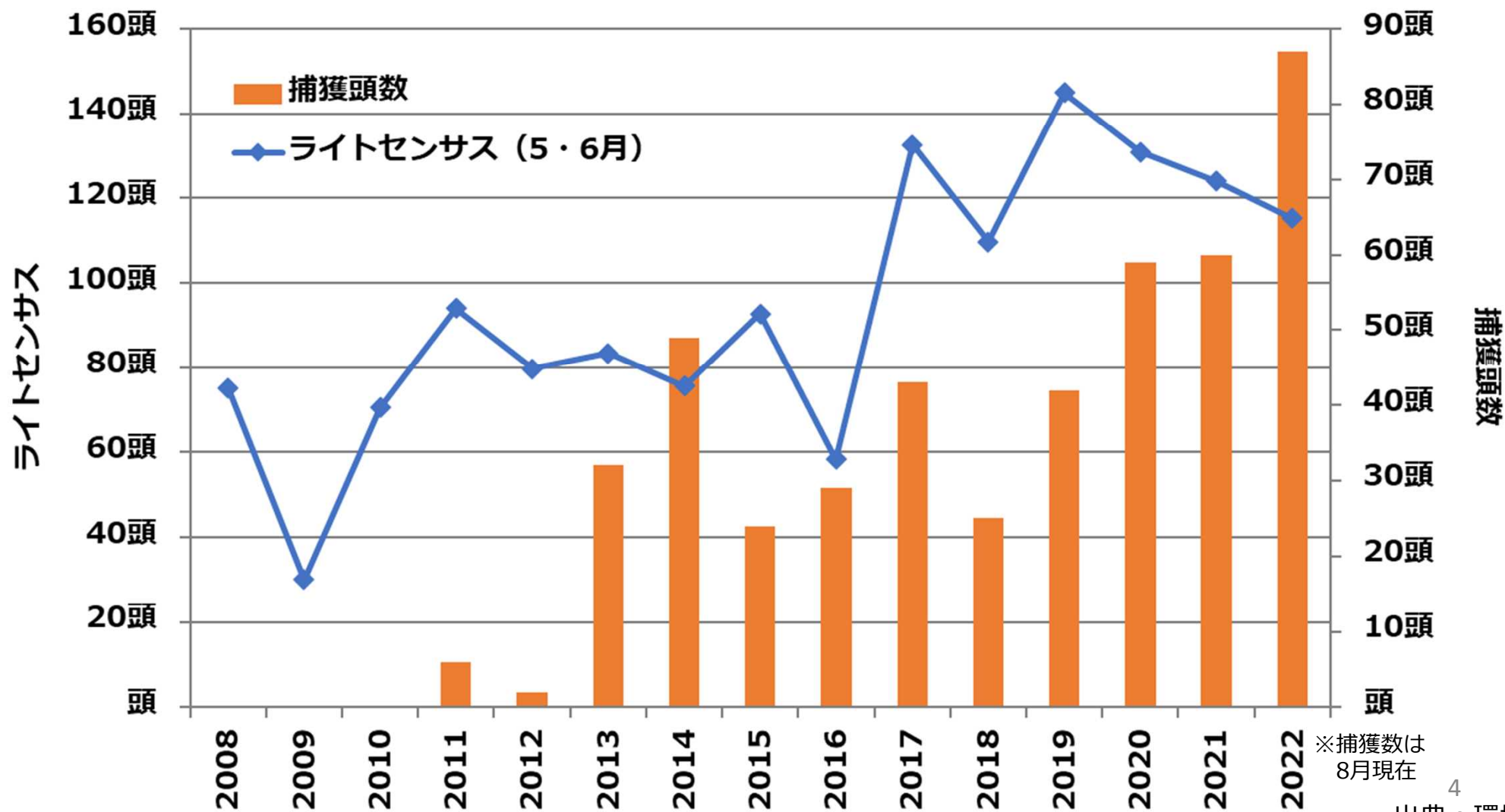
# 尾瀬ヶ原

(尾瀬ヶ原・尾瀬沼)

## 捕獲効果

- 2022年度は捕獲頭数が急増。
- 5・6月のライトセンサスの平均確認頭数は増加傾向であったが、近年やや減少。

捕獲頭数と平均確認個体数の推移



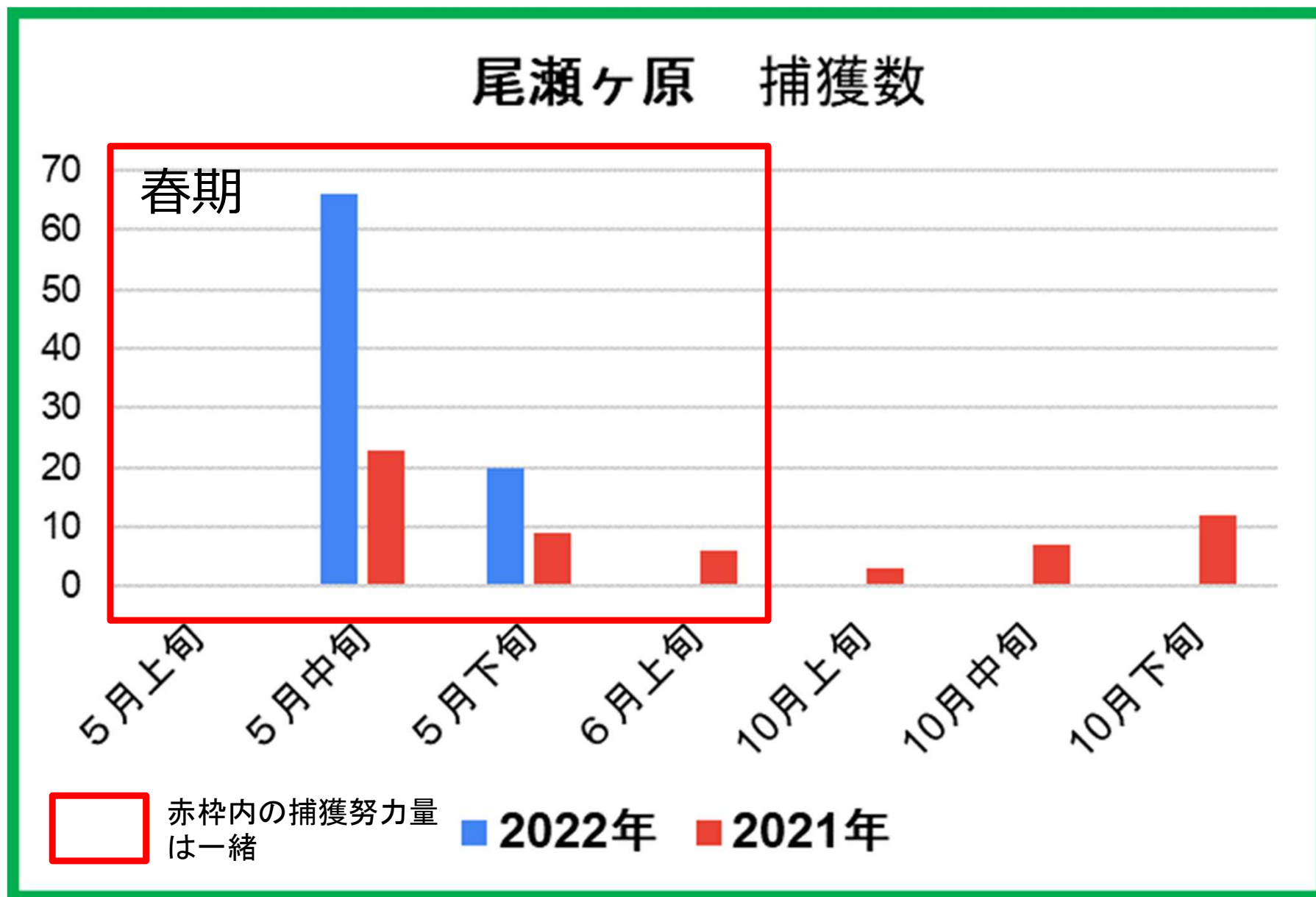


# 尾瀬ヶ原

(尾瀬ヶ原・尾瀬沼)

## 2022春の捕獲数

- 尾瀬ヶ原の2022年春期の捕獲数は、2021年より急増。







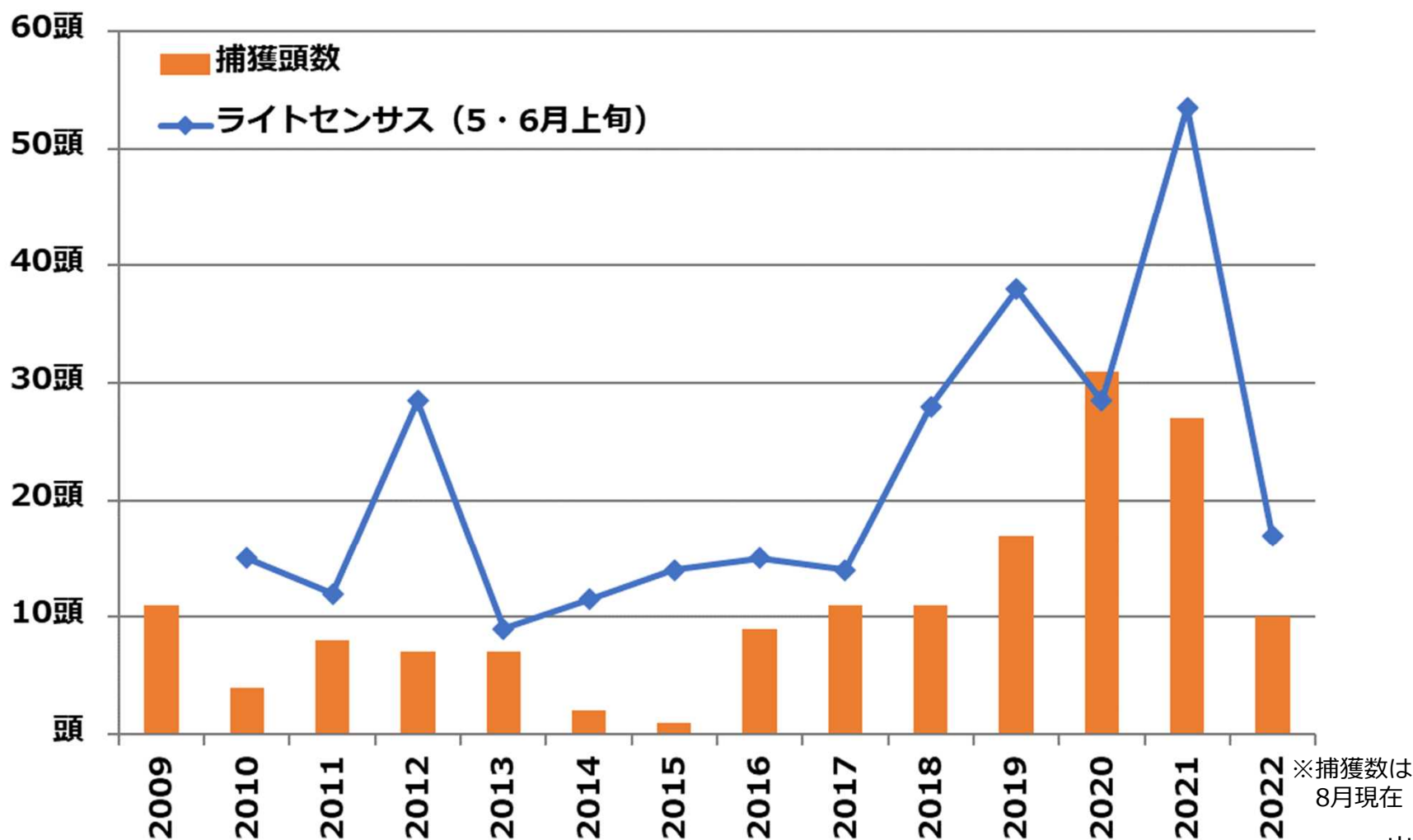
# 尾瀬沼

(尾瀬ヶ原・尾瀬沼)

## 捕獲効果

- ・ ライトセンサスによる確認頭数は、長期的に見ると増加傾向
- ・ 2022年の春は残雪が多かったため、シカが尾瀬沼に季節移動するのが遅れた。
- ・ そのためライトセンサスによる確認頭数も捕獲数も少なかった。

捕獲頭数と平均確認個体数の推移



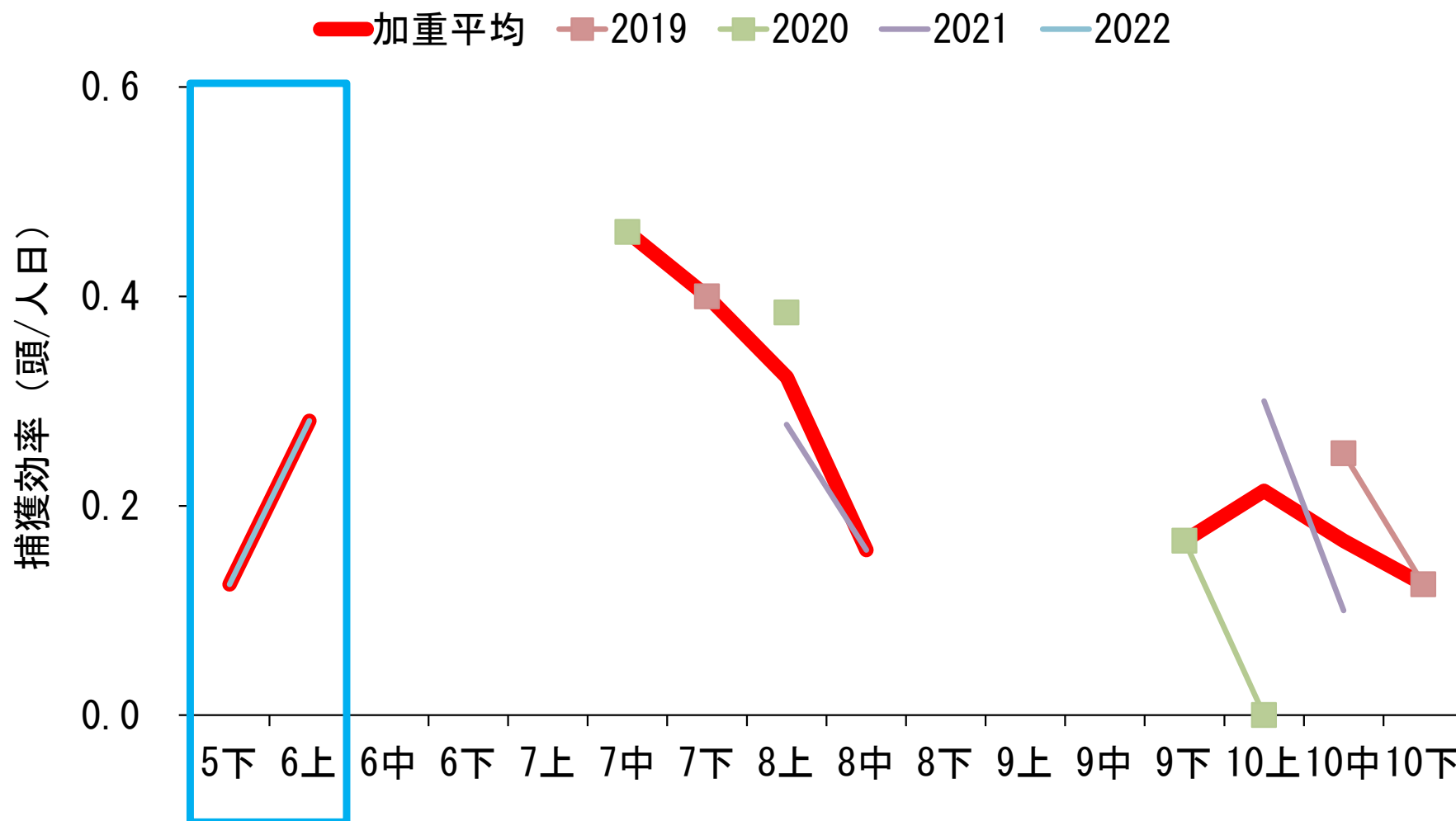


# 尾瀬沼

(尾瀬ヶ原・尾瀬沼)

## 2022春の捕獲数

- 尾瀬沼での春期の銃猟捕獲を初めて実施。
- 残雪が多く、まだ多数が移動途中であり尾瀬沼に未到着だったのか、捕獲効率はそれほど高くなかった。



## 尾瀬・日光国立公園二ホンジカ対策方針（概要版）

	日光国立公園 シカの生息条件下で成立した生態系	尾瀬国立公園 シカによる影響を受けずに成立した生態系
最終目標 (ゴール)	<u>シカの生息密度が適切に保たれ、植生への影響が十分に小さく、健全な植生の維持・更新に支障がない状態を維持</u>	<u>尾瀬ヶ原・尾瀬沼や高山帯へのシカの影響を排除し、湿原及び高山植生への影響が見られない状態を維持</u>
事業目標 (5年目途)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 植生への影響を低減するため、<u>シカの生息密度を現状より低密度に</u></li> <li>➤ 保全対象となる湿原・高山・森林植生を維持・回復するため、関係機関が連携して、<u>防護柵を適切に設置・維持管理</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 湿原植生への影響を低減するため、指標に基づき、<u>尾瀬ヶ原等の湿原に出没するシカの個体数を概ね半減</u></li> <li>➤ 森林、湿原及び高山植生を保護するため、関係者が連携して、<u>優先防護エリアのA及びBランクに防護柵を設置</u></li> </ul>





- 優先防護エリアAランクの笠ヶ岳・Bランクの泉水田代は現地見学を終え、群馬県グループで柵設置に向け調整をしている。
- 優先防護エリアBランクの燧ヶ岳は環境省と福島県が共同で実施現在柵の測量を行っている。



2022.6.15 泉水田代（群馬県グループ）



縮小している  
クロバナロウゲの群落



2022.7.14 笠ヶ岳（群馬県グループ）



湿原の荒廃が見られた



(2017年)



(2022年)

燧ヶ岳（6合目）福島県と合同設置

## 尾瀬・日光国立公園二ホンジカ対策方針（概要版）

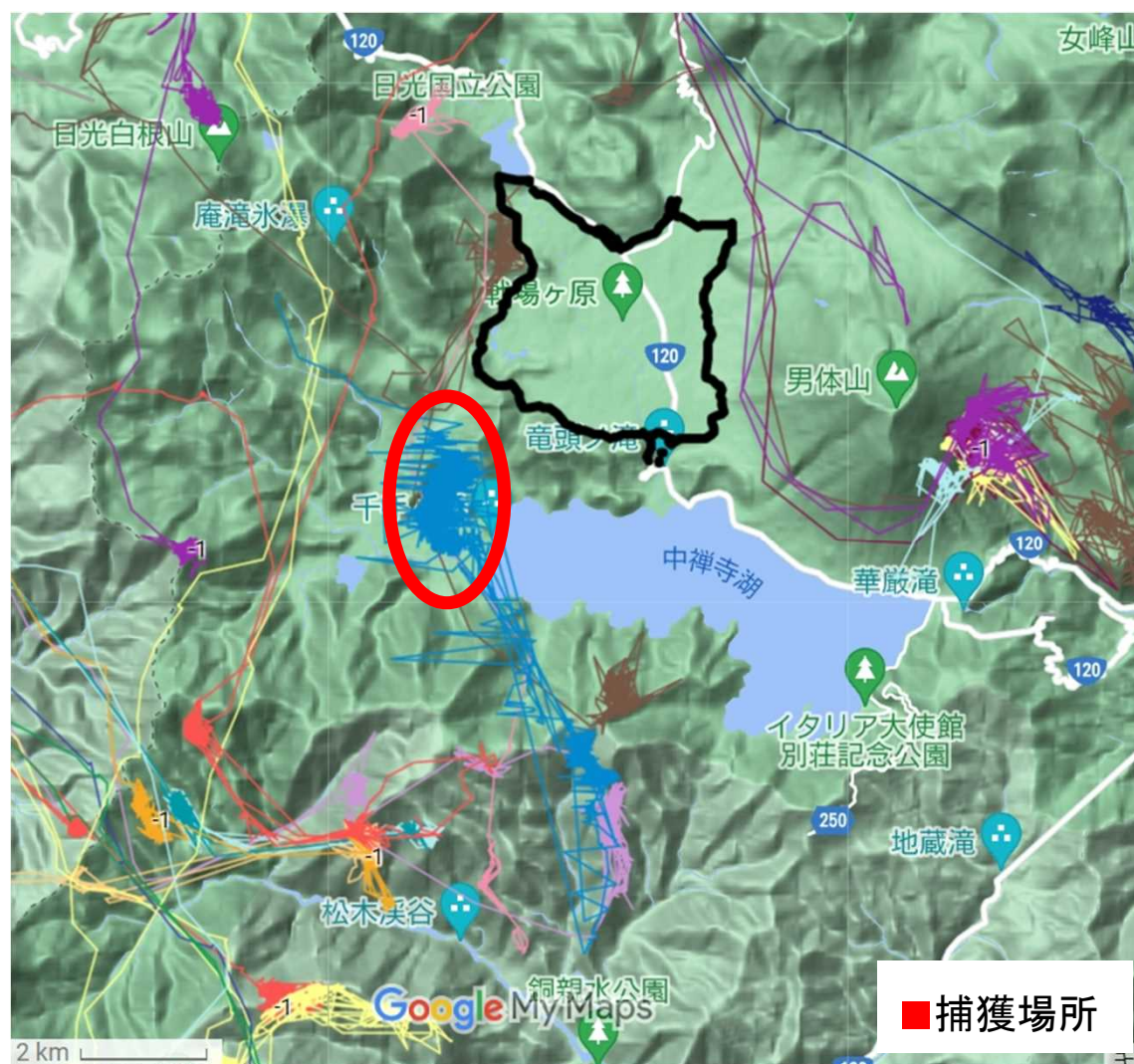
	日光国立公園 シカの生息条件下で成立した生態系	尾瀬国立公園 シカによる影響を受けずに成立した生態系
最終目標 (ゴール)	シカの生息密度が適切に保たれ、植生への影響が十分に小さく、健全な植生の維持・更新に支障がない状態を維持	尾瀬ヶ原・尾瀬沼や高山帯へのシカの影響を排除し、 <u>湿原及び高山植生への影響が見られない状態を維持</u>
事業目標 (5年目途)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ <u>植生への影響を低減するため、シカの生息密度を現状より低密度に</u></li> <li>➤ 保生対象となる湿原・高山・森林植生を維持・回復するため、関係機関が連携して、<u>防護柵を適切に設置・維持管理</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 湿原植生への影響を低減するため、指標に基づき、<u>尾瀬ヶ原等の湿原に出没するシカの個体数を概ね半減</u></li> <li>➤ 森林、湿原及び高山植生を保護するため、関係者が連携して、<u>優先防護エリアのA及びBランクに防護柵を設置</u></li> </ul>





## 移動経路上での捕獲

- 春季移動個体を対象として、4月に千手ヶ原にて捕獲を実施。
- 地元猟友会による機動力の高い捕獲により、20日間で60頭捕獲し、捕獲効率の高い結果が得られた。







# 奥日光・足尾 (越冬地)

## 日光白根山でのGPS装着



- 夏季定住個体の定住地・移動経路の把握のためのGPS首輪の装着をしている。
- 2021年度、環境省にて日光白根山、湯元スキー場で計2頭装着した。
- 2021年度、栃木県にて千手で1頭装着した。
- 2022年度、環境省にて、日光白根山で1頭装着した。今後もう1頭装着する。





## 尾瀬・日光国立公園二ホンジカ対策方針（概要版）

	日光国立公園 シカの生息条件下で成立した生態系	尾瀬国立公園 シカによる影響を受けずに成立した生態系
最終目標 (ゴール)	<u>シカの生息密度が適切に保たれ、植生への影響が十分に小さく、健全な植生の維持・更新に支障がない状態を維持</u>	<u>尾瀬ヶ原・尾瀬沼や高山帯へのシカの影響を排除し、湿原及び高山植生への影響が見られない状態を維持</u>
事業目標 (5年目途)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 植生への影響を低減するため、<u>シカの生息密度を現状より低密度に</u></li> <li>➤ 保全対象となる湿原・高山・森林植生を維持・回復するため、関係機関が連携して、<u>防護柵を適切に設置・維持管理</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 湿原植生への影響を低減するため、指標に基づき、<u>尾瀬ヶ原等の湿原に出没するシカの個体数を概ね半減</u></li> <li>➤ 森林、湿原及び高山植生を保護するため、関係者が連携して、<u>優先防護エリアのA及びBランクに防護柵を設置</u></li> </ul>





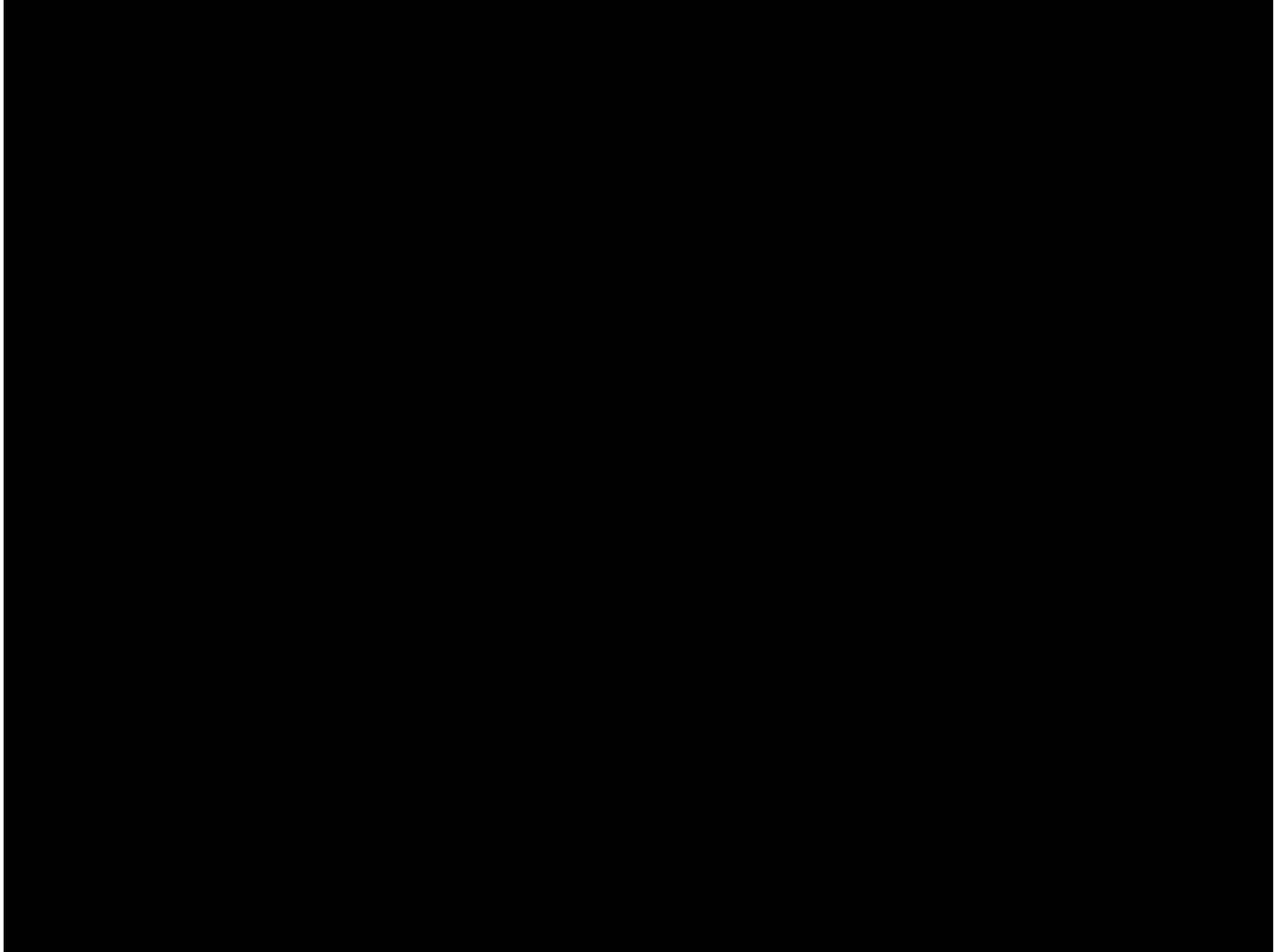
# 奥日光・足尾 (越冬地)

## 植生被害状況調査

- シカ植生被害状況を把握するため、女峰山、太郎山、白根山にて調査を実施。  
(2021年度は鬼怒沼にて調査を実施した) **越冬地**







## ・2022年度 重点方針の実施状況 ・ 2023年度 重点方針(案)

	日光国立公園	尾瀬国立公園	その他共通事項
2022年度 重点方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 高標高域、捕獲困難地域での捕獲の強化・継続。</li> <li>➤ 夏季の定住個体を対象とした捕獲を地域主体で効率的に実施。</li> <li>➤ 日光版の優先防護エリア案を作成を検討する。</li> <li>➤ 夏季の定住個体に装着したGPS首輪調査で把握した夏季定住地、移動経路や越冬地における最適な捕獲の検討。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 尾瀬ヶ原・尾瀬沼周辺での捕獲の強化・継続（捕獲適期の検討。六兵衛堀周辺（河畔林）での捕獲の実施など）。</li> <li>➤ 通信機能付きカメラを利用したリアルタイムの移動状況の共有による移動経路上での捕獲の強化・継続。</li> <li>➤ 優先防護エリアのA・Bランクに防護柵の設置・継続・検討。</li> <li>➤ 燧ヶ岳、会津駒ヶ岳、田代山、帝釈山周辺の優先防護エリアに防護柵の設置を検討。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 捕獲目標数は捕獲実績、対策方針を踏まえて設定。</li> <li>➤ 効果的・効率的な防護柵の設置・維持管理の手法に関する検討・情報共有。</li> <li>➤ 出猟カレンダー（指定管理・有害捕獲）の普及。</li> <li>➤ 防護柵や優先防護エリア、過去の季節移動経路等の位置情報をGISに集約し、協議会構成員で共有する。</li> </ul>
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 主な越冬地である足尾地域での捕獲は、高標高域を含め栃木県が精力的に実施している。</li> <li>➤ 日光市が猟友会に委託して、季節移動個体を対象とした機動性の高い捕獲を実施し、成果を上げている。</li> <li>➤ 鬼怒沼の植生被害状況を確認し、対策の展開に向けて共同体が迅速に動き始めている。</li> <li>➤ 奥日光（太郎山、女峰山、白根山）の植生の被害状況調査を実施している。</li> <li>➤ 2021年に初めて白根山でのGPS装着を実施。2022年にもう2頭装着予定であり、これにより越冬地や移動経路が分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 春季の尾瀬ヶ原では過去最高の捕獲数となり、夜間銃猟の検討も開始した。</li> <li>➤ 通信機能付きカメラでは、メーリングリストを使用した撮影画像のリアルタイムの共有を実施している。移動経路上での捕獲は順調な捕獲ができている。</li> <li>➤ 田代山にて捕獲を開始した。</li> <li>➤ 柵が未設置の優先防護エリアA・Bランクについて協議会構成員と現地視察等を通じて各エリアの方針を検討している。</li> <li>➤ 燧ヶ岳は設置に向けた予備調査等実施している。会津駒ヶ岳、田代山、帝釈山周辺の柵の設置の可能性と各所の方針を模索している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 環境省が対策方針範囲内の個体数のベイズ推定を実施し、半減目標達成に必要な捕獲努力量を試算した。</li> <li>➤ 各県内では協議会や現地視察を通じて防護手法についての情報交換が促進されている。</li> <li>➤ 出猟カレンダー（指定管理・有害捕獲）は一部で運用している。</li> <li>➤ 過去の季節移動経路等の位置情報をGoogleマイマップにて共有開始した。</li> </ul>
2023年度 重点方針 (案)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 主たる越冬地である足尾における冬季の捕獲を強化する。</li> <li>➤ 奥日光における地域主体で機動力の高い捕獲を継続・促進する。</li> <li>➤ 植生被害状況調査の結果を元に奥日光での植生防護のあり方を検討する。</li> <li>➤ 夏季の定住個体に装着したGPS首輪調査で把握した夏季定住地、移動経路や越冬地における最適な捕獲の検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 尾瀬ヶ原・尾瀬沼において、夜間銃猟等のより効率的な捕獲方法を検討する。</li> <li>➤ 田代山の捕獲を強化する。</li> <li>➤ 優先防護エリアのA・Bランクの各所の方針の具体化と運用をする。</li> <li>➤ 会津駒ヶ岳、田代山、帝釈山を協議会で現地視察し、カメラ等のモニタリングを開始する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 日光と尾瀬、両国立公園を行き来する移動経路上での捕獲の強化する。</li> <li>➤ 効果的・効率的な防護の方法・維持管理について共有する。</li> <li>➤ 移動経路上に通信機能付きカメラを広範囲に設置しシカの動きを捉えやすくする。</li> <li>➤ Googleマイマップに位置情報を集約・拡充し、協議会構成員で共有する。</li> </ul>